

データで見る

「誰も取り残されない宮城」のための
宮城県の人間の安全保障指標

NPO法人「人間の安全保障」フォーラム



人間の安全保障指標・プロジェクトメンバー

- 高須幸雄 人間の安全保障フォーラム理事長
- 峯陽一 同志社大学教授
- 川村真也 中部大学研究員
- 石本めぐみ ウイメンズアイ代表理事(南三陸町)
- 山崎真帆 一橋大学大学院/東北文化学園大学助教(就任予定)



目次

| | |
|-------------------------|--------|
| SDGs の真の意味と人間の安全保障指標の意義 | ... 1 |
| 宮城県の最近のデータ | ... 3 |
| 宮城県の人間の安全保障指標一覧 | ... 5 |
| 宮城県の人間の安全保障指数 | ... 9 |
| 結論と提言 | ... 15 |
| 宮城県各自治体の優先課題 | ... 18 |

SDGsの真の意味と 人間の安全保障指標の意義

SDGsの5つの特徴

| | |
|-----|-------------------------------|
| 普遍性 | 先進国を含め、 <u>全ての国が行動</u> |
| 包摂性 | <u>「誰一人取り残さない」</u> |
| 参画型 | <u>あらゆる主体・関係者の参画</u> を重視 |
| 統合性 | <u>経済・社会・環境</u> の相互関連・相乗効果を重視 |
| 透明性 | <u>定期的にフォローアップ</u> |

持続可能性

持続可能な開発目標（SDGs）実施指針
（H28.12.22内閣官房SDGs推進本部決定）を基に作成

「新・宮城の将来ビジョン(2021-30)」から引用

SDGsの理念: 誰一人取り残されない 一人一人の尊厳

日本の人間安全保障指標を作成した5つの理由

- (1) SDGsは、途上国への国際協力だけの問題ではなく、日本自身の課題でもある。
- (2) SDGsは、環境や経済の持続可能性だけではなく、「誰一人取り残されない」社会に向けて、一人一人の尊厳が問われている。
- (3) SDGs 17目標・232指標の達成が最終目的ではない。理念へ向かう一つの道筋でしかない。
- (4) 日本のSDGs達成度が国際的に高位に評価されているが、基準であるSDGs指標が先進国の評価には必ずしも適していないのではないかと。
- (5) 日本（先進国）では、SDGs指標をモニターするだけではSDGsの理念は達成されない。

『全国データ：SDGsと日本』から見た宮城県の課題

宮城県の人間の安全保障指標(2019年作成)

総合指数 全国45位

生活指数と尊厳指数が極めて低く、主観的な自己充足度が低い。自己充足度40位 連携性33位。

命指数(32位)：平均寿命(男性15位、女性20位)、健康寿命(男性12位、女性36位)が中位。

健康診断率は最も高いが、出生率が低く、自殺意識率が高い。

自然災害の死者・行方不明者数が最も多く、東日本大地震の被害の大きさが再認識された。

生活指数(45位)：生産年齢人口割合が高いが、可処分所得(47位)、女性の雇用率(42位)、障害者雇用率、高齢者有業率(46位)が極めて低い。生活困窮者自立支援の相談件数も極めて高い。

公共施設・上水道の耐震化率が高い。

尊厳指数(47位)：子どもを巡る課題が多い：待機児童率(42位)：不登校率(47位)、高校中退率が高く、いじめ件数(45位)が多く、子どもの学力の達成度が低い。児童相談件数(47位)、子どもの一時保護所受入れ日数(44位)が極めて多く、里親委託率は高いが、児童養護施設数(47位)が最も少ない。

宮城県の最近のデータ

人口：宮城県の人口は2,280,918人(2021.1末現在)。県の人口は237万人(2003年)をピークに減少に転じ、東日本大震災直後は復興需要で微増したが、2014年以降は減少し、2018年以降は毎年約1万人ずつ急速に減少している。県内の内陸部、海岸部とも人口減の反転は見られず、仙台都市圏でも、現在まで微増を続けてきているが、ほぼピークに達し、今後は微減していくと推計されている。

2020年10月1日の時点で、県の人口の**実勢値は、社人研の推計値よりもやや少なく**(3,423人)、現在の出生率・社会増減の趨勢が続けば、2025年以降の人口減は推計以上に厳しい状況が懸念される。

コロナ禍：県内感染者数4,088名、死者25名(2021.3.14現在)

子どもを巡る最近のデータ

学力：2019年度の平均正答率は、仙台市を除いた宮城県平均で、小6国語3ポイント、算数3ポイント、中3国語で2ポイント、数学5ポイント、英語6ポイント、それぞれ**全国平均を下回る**。仙台市を加算すると、やや改善するが、依然として全国平均との乖離は顕著であり、学力向上が課題。

肥満傾向：全国的に見て、男女とも肥満傾向児童生徒数が多く(小5男子8位、女子7位、中2男子4位、女子7位)、運動能力の関係からも食生活の見直しが課題。

不登校：2019年度**全国で最も高い**。宮城県の小学校千人当たり10.2人、中学校51.0人で、合計24人(実数4,187人)。うち、仙台市は、小学校9.5人、中学校55.8人で、合計で24.3人(実数1,877人、県内の44.8%)、仙台以外で2310人の不登校生が認められ、県教委によれば、「前年度より減少した地域もある」が、全県的に深刻な問題である。気仙沼市など一部の自治体で不登校率を公表して、その対策に取り組む例もあるが、「魅力ある生きたくなる学校づくり」とともにフリースクールをはじめとする子どもの居場所づくりを拡大していくためにも、自治体ごとのデータを公表して、官民連携した取り組みを強化すべきである。

いじめ：2019年度のいじめの認知件数は、宮城県の小中高で、千人当たり70.1件(16,844件)と、前年度より減少したが(1,921件)、**全国9位で依然極めて多い**。とりわけ仙台市のいじめの認知件数は、千人当たり170.9件(実数13,767件)と極めて高く(**政令指定都市の中で全国2位**)、宮城県内の81.7%にあたる。

里親委託率：2019年度は、前年度よりやや増加し、東部事務所と気仙沼事務所が約60%前後に達したが、仙台市(28.6%→35.3%)、中央事務所(33%→27.6%)、北部事務所(22.1%→20%)における里親委託率の向上を期待。

人権侵犯事件：仙台法務局管轄の件数は、2019年度290件で、2017年420件、2018年304件と比べ、やや減少傾向にあるが、インターネットによる侵犯、暴行虐待の件数は多い。

DV相談件数：2019年度は、前年度よりやや減少したが、依然2863件に上る。

防災関係：消防団員の充足率が90%に達した自治体は13に過ぎない(2020.10現在)。防災拠点となる公共施設等の耐震率は、21自治体が100%に達しているが、3自治体は9割に到達していない(2018年度末)。防災体制の完備を早急に進める必要がある。

宮城県の人口変化(2005-2045)

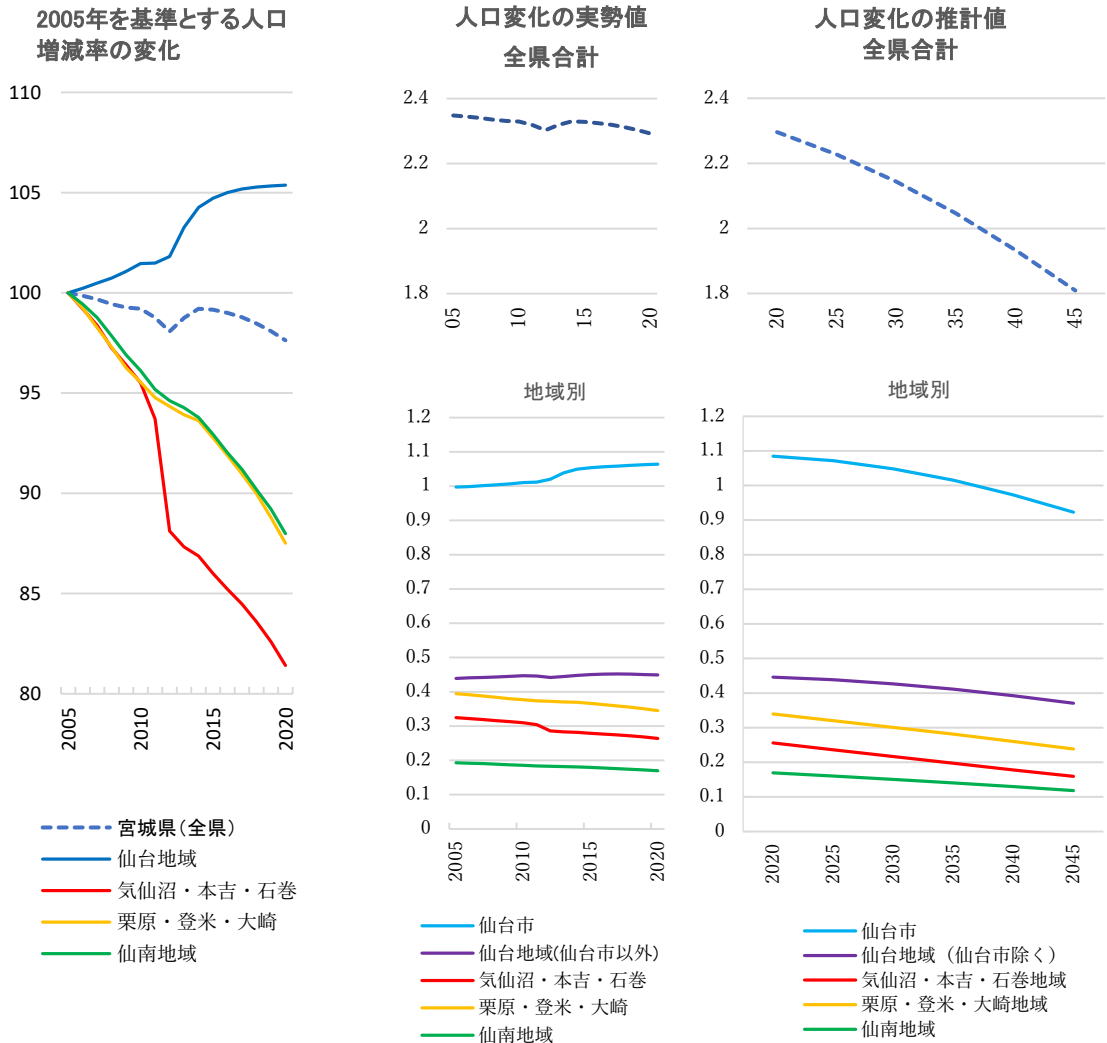


表1 2005年の人口を100とする地域別人口増減率

出典:表2と同じ。

| | 2005 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 宮城県(全県) | 100% | 99% | 99% | 98% | 99% | 99% | 99% | 99% | 99% | 98% | 98% | 98% |
| 仙台地域 | 100% | 101% | 101% | 102% | 103% | 104% | 105% | 105% | 105% | 105% | 105% | 105% |
| 気仙沼・本吉・石巻地域 | 100% | 96% | 94% | 88% | 87% | 87% | 86% | 85% | 84% | 84% | 83% | 81% |
| 栗原・登米・大崎地域 | 100% | 96% | 95% | 94% | 94% | 94% | 93% | 92% | 91% | 90% | 89% | 88% |
| 仙南地域 | 100% | 96% | 95% | 95% | 94% | 94% | 93% | 92% | 91% | 90% | 89% | 88% |

表2 地域別の人口変化の実勢値 単位:百万人

出典:住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(総務省)

| | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 宮城県(全県) | 2.35 | 2.34 | 2.34 | 2.33 | 2.33 | 2.33 | 2.32 | 2.30 | 2.32 | 2.33 | 2.33 | 2.32 | 2.32 | 2.31 | 2.30 | 2.29 |
| 仙台市 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.01 | 1.01 | 1.01 | 1.02 | 1.04 | 1.05 | 1.05 | 1.06 | 1.06 | 1.06 | 1.06 | 1.06 |
| 仙台地域(仙台市以外) | 0.44 | 0.44 | 0.44 | 0.44 | 0.44 | 0.45 | 0.45 | 0.44 | 0.44 | 0.45 | 0.45 | 0.45 | 0.45 | 0.45 | 0.45 | 0.45 |
| 気仙沼・本吉・石巻 | 0.32 | 0.32 | 0.32 | 0.32 | 0.31 | 0.31 | 0.30 | 0.29 | 0.28 | 0.28 | 0.28 | 0.28 | 0.27 | 0.27 | 0.27 | 0.26 |
| 栗原・登米・大崎 | 0.39 | 0.39 | 0.39 | 0.38 | 0.38 | 0.38 | 0.37 | 0.37 | 0.37 | 0.37 | 0.37 | 0.36 | 0.36 | 0.35 | 0.35 | 0.35 |
| 仙南地域 | 0.19 | 0.19 | 0.19 | 0.19 | 0.19 | 0.19 | 0.18 | 0.18 | 0.18 | 0.18 | 0.18 | 0.18 | 0.18 | 0.17 | 0.17 | 0.17 |

表3 地域別の人口変化の推計値 単位:百万人

出典:国立社会保障人口問題研究所。2015年国勢調査による予測。2020年は表2と一致しない。

| | 2020 | 2025 | 2030 | 2035 | 2040 | 2045 |
|-------------|------|------|------|------|------|------|
| 宮城県(全県) | 2.30 | 2.23 | 2.14 | 2.05 | 1.93 | 1.81 |
| 仙台市 | 1.08 | 1.07 | 1.05 | 1.02 | 0.97 | 0.92 |
| 仙台地域(仙台市除く) | 0.45 | 0.44 | 0.43 | 0.41 | 0.39 | 0.37 |
| 気仙沼・本吉・石巻地域 | 0.26 | 0.24 | 0.22 | 0.20 | 0.18 | 0.16 |
| 栗原・登米・大崎地域 | 0.34 | 0.32 | 0.30 | 0.28 | 0.26 | 0.24 |
| 仙南地域 | 0.17 | 0.16 | 0.15 | 0.14 | 0.13 | 0.12 |

宮城県の人間の安全保障指標一覧

1.命指標(26指標)

| | | |
|------------|-----|------------------------------------|
| A.生命 13 | A1 | 平均寿命男性 平均寿命女性 |
| | A2 | 人口増減率(2021年と2011年の比較) |
| | A3 | 合計特殊出生率 |
| | A4 | 0-14歳の子どもの数 |
| | A5 | 生産年齢人口割合(15-64歳人口)(男女別) |
| | A6 | 未婚率(50歳時) |
| | A7 | 転入者数と転出者数の差(国勢調査2010年-2015年) |
| | A8 | 高齢化率(2018年) |
| | A9 | 高齢単身世帯割合(男性・女性対一般世帯数) |
| | A10 | ひとり親世帯の子供の割合 |
| | A11 | 自殺死亡者数(人口千人あたり) |
| | A12 | 自然災害の死者・行方不明者数(2008-20年の合計人口千人あたり) |
| | A13 | 交通事故死傷者数(人口千人あたり) |
| B.健康 13 | B1 | 健康寿命男性・健康寿命女性 |
| | B2 | 一般病院・診療所数(人口千人あたり) |
| | B3 | 医師の数(人口千人あたり) |
| | B4 | 産婦人科医院の数(人口千人あたり) |
| | B5 | 一人あたり医療費(過去4年平均) |
| | B6 | 健康診断受診率 |
| | B7 | 国民健康保険一人あたり納付額 |
| | B8 | 子どもの医療費負担(助成内容で比較) |
| | B9 | 12歳児の虫歯などによる喪失歯数 |
| | B10 | 障害者数(人口千人あたり)指数計算に算入しない |
| | B11 | 成人喫煙率 |
| | B12 | スポーツの年間行動者率(域圏) |
| | B13 | 平均歩数(域圏) |

宮城県の人間の安全保障指標一覧

2.生活指標(48指標)

| | | |
|--------------------------|-----|--------------------------------|
| C. 経済・産業・ 雇用 14 | C1 | 一人あたり市町村民所得（年額） |
| | C2 | 1世帯当たり購買額（月額） |
| | C3 | 所得300万円未満の世帯(単身世帯は除く)の割合 |
| | C4 | 国民年金保険料の全額免除者の割合 |
| | C5 | 市町村別労働生産性 |
| | C6 | 市町村別の農漁業生産高 |
| | C7 | 市町村別宮城県地域再生計画認定数 |
| | C8 | 完全失業率 |
| | C9 | 雇用者に占める正規雇用者の割合 |
| | C10 | 女性人口に占める就業者の割合 |
| | C11 | 女性の就業者に占める正規雇用者の割合 |
| | C12 | 障害者雇用率 |
| | C13 | 高齢者有業率（65歳以上人口あたり） |
| | C14 | 財政力指数 |
| D.教育 11 | D1 | 待機児童数 |
| | D2 | 小学校児童数（教員一人あたり） |
| | D3 | 中学校生徒数（教員一人あたり） |
| | D4 | 高等学校生徒数(教員一人あたり) |
| | D5 | 就学援助の受給率 |
| | D6 | 一人あたり教育費 |
| | D7 | 大学進学率、指数計算に含めない |
| | D8 | 肥満傾向児童生徒の割合(小6、中2) |
| | D9 | 生涯教育の機会 |
| | D10 | 小中学校のICT教育の環境 |
| | D11 | ユネスコスクール指定校 |
| E.福祉 9 | E1 | 児童養護施設の数（人口千人あたり） |
| | E2 | 児童相談件数（人口千人あたり） |
| | E3 | 生活保護受給率（人口千人あたり） |
| | E4 | 介護保険料（一人あたり標準） |
| | E5 | 要介護者割合 |
| | E6 | 老人ホーム等の高齢者用施設数（65歳以上人口あたり） |
| | E7 | 特養施設入所希望者の割合（要介護3－5認定者数に対する人数） |
| | E8 | 介護サービス従事者数（75歳以上人口千人あたり） |
| | E9 | 生活保護のケースワーカーの数、担当世帯数 |
| F. 自然・ 生活環境 14 | F1 | 日照時間 |
| | F2 | 住宅の高齢者設備の有無 |
| | F3 | 一人あたり二酸化炭素の排出量 |
| | F4 | 再生可能エネルギーの発電量 |
| | F5 | 1住宅あたりの住宅延べ面積 |
| | F6 | 持ち家世帯の比率 |
| | F7 | 自動車保有台数 |
| | F8 | コンビニの数（人口千人あたり） |
| | F9 | 汚水処理率 |
| | F10 | 自然災害による住居被害 |
| | F11 | 消防団員の充足率 |
| | F12 | 防災拠点となる公共施設等の耐震化率 |
| | F13 | 飲酒運転 違反件数（免許人口1万人あたり） |
| | F14 | 刑法犯罪認知件数 |

宮城県の人間の安全保障指標一覧

3. 尊厳指標(25指標)

| | | |
|-------------------------|-----|---------------------------------------|
| G. 尊厳 6 | G1 | 自治体の総合計画とSDGsの視点（チームによる評価） |
| | G2 | 子どもの虐待相談件数（人口千人あたり） |
| | G3 | こどもの居場所、心のケアハウス、児童館、児童クラブなどの数 |
| | G4 | 里親委託児童数 指数計算に算入しない |
| | G5 | 未成年者の自殺率 |
| | G6 | 女性の自殺率 |
| H. 公への信頼・ ジェンダー 6 | H1 | 国政・知事選挙投票率 |
| | H2 | 自治体の男女共同参画推進の評価 |
| | H3 | 市町村議会の女性議員の割合 |
| | H4 | 市町村管理職の女性の割合 |
| | H5 | 審議会等委員の女性の割合 |
| | H6 | 自治会長に占める女性の割合 |
| J. 地域の連帯 11 | J1 | 自治体の交流人口・移住定住の魅力のアピール（チームによる評価） |
| | J2 | 指定文化財の件数（人口千人あたり） |
| | J3 | 公民館数（人口1万人あたり） |
| | J4 | 東日本大震災後の地域の絆（アンケート調査） |
| | J5 | 地縁団体の数（人口千人あたり） |
| | J6 | NPO団体数（人口千人あたり） |
| | J7 | 外国人人口（人口千人あたり） |
| | J8 | 未成年の 外国人数の割合 |
| | J9 | 外国人留学生(実数) 指数計算に算入しない |
| | J10 | 技能実習生数(実数) 指数計算に算入しない |
| | J11 | 自分の住む地域に外国人が増えることを歓迎する割合 （アンケート調査） |
| K. 満足 2 | K1 | 自分の人生に満足していない人の割合（アンケート調査） |
| | K2 | 自分の人生が将来今より良くなると思わない人の割合 （アンケート調査） |

人間の安全保障指数の計算方法

総合指数、命指数、生活指数、尊厳指数

自治体レベルで比較するための指数の算出には、国連開発計画の人間開発指数の算出方式に基づき、命指標（26）、生活指標（48）、尊厳指標（25）に関連する項目の自治体別の統計データの正規化をし、1から0の変数に置き換えた。

「出生率」のように、高い数値が望ましい指標に関しては、最大値を1、最小値を0にする正規化をした。

「自殺死亡率」のように、低い数値が望ましい指標に関しては、最小値を1、最大値を0にする正規化をした。

指数を集計し、その平均値により、各自治体の**命指数、生活指数、尊厳指数**を算出した。

上記3指数を統合した平均値により**総合指数**を算出した。

主観的な評価（自己充足度）

みやぎ生協の多大なるご協力をえて、県民（3,624人）に対して行ったアンケート調査（2020年9-12月）の設問に対して、「自分の人生に満足していない」、「自分の将来が今より良くなるとは思わない」、「自分が誇りに思うことは何もない」と回答した人の割合の平均値を、自治体別に算出した。

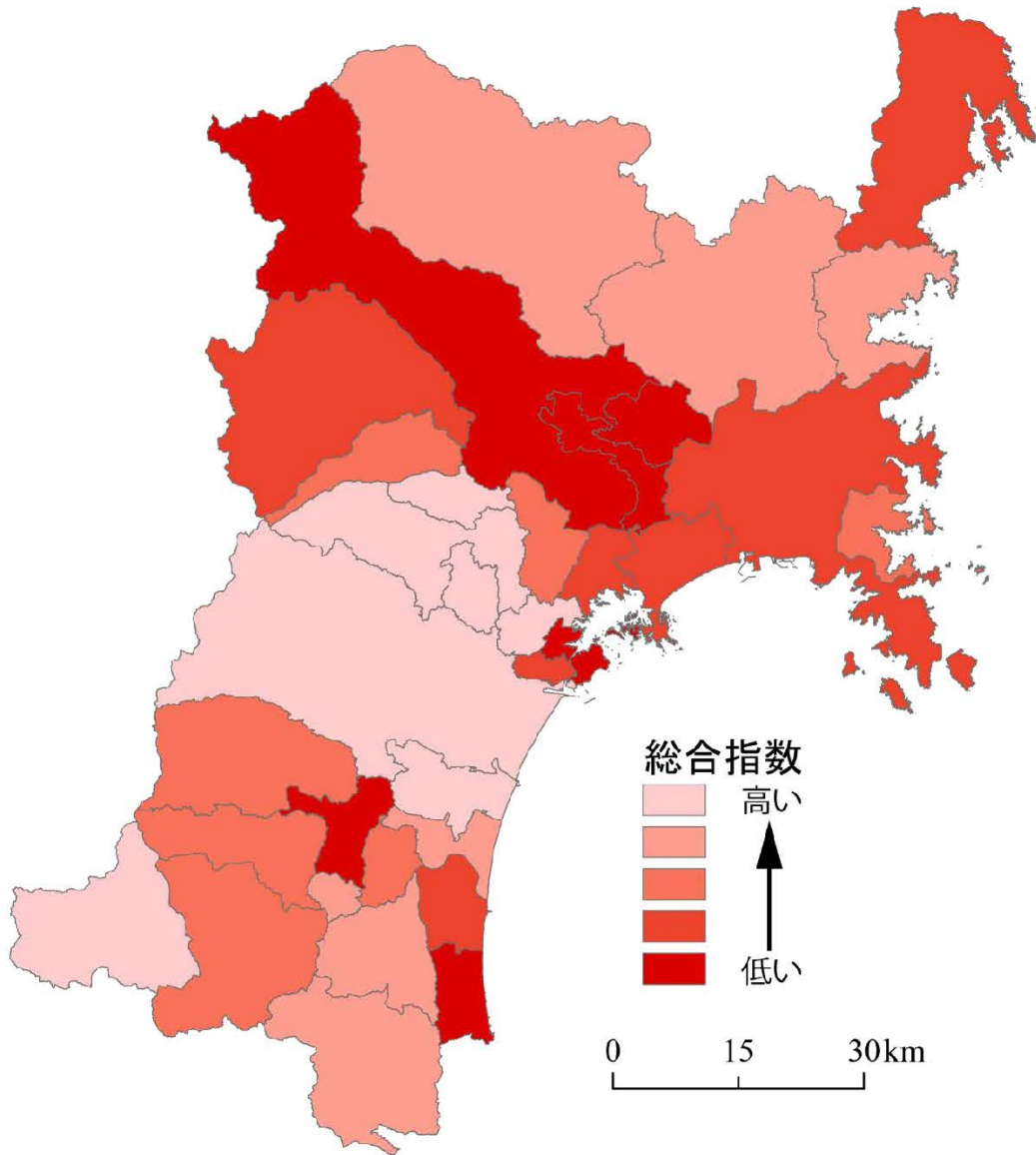
この平均値の数字が低い自治体ほど、住民の自己評価が相対的に高い、すなわち自己充足度が強いと考えられる。

主観的な評価（社会的な連携性）

アンケート調査の設問に対する答えとして、「孤独でつらい」、「困ったときに相談する人が誰もいない」、「人を助けたことはない」と回答した人の割合の平均値を、自治体別に算出した。

この平均値が低いほど、住民の間の社会的連携が強いと考えられる。

宮城県の人間の安全保障指数(総合指数)

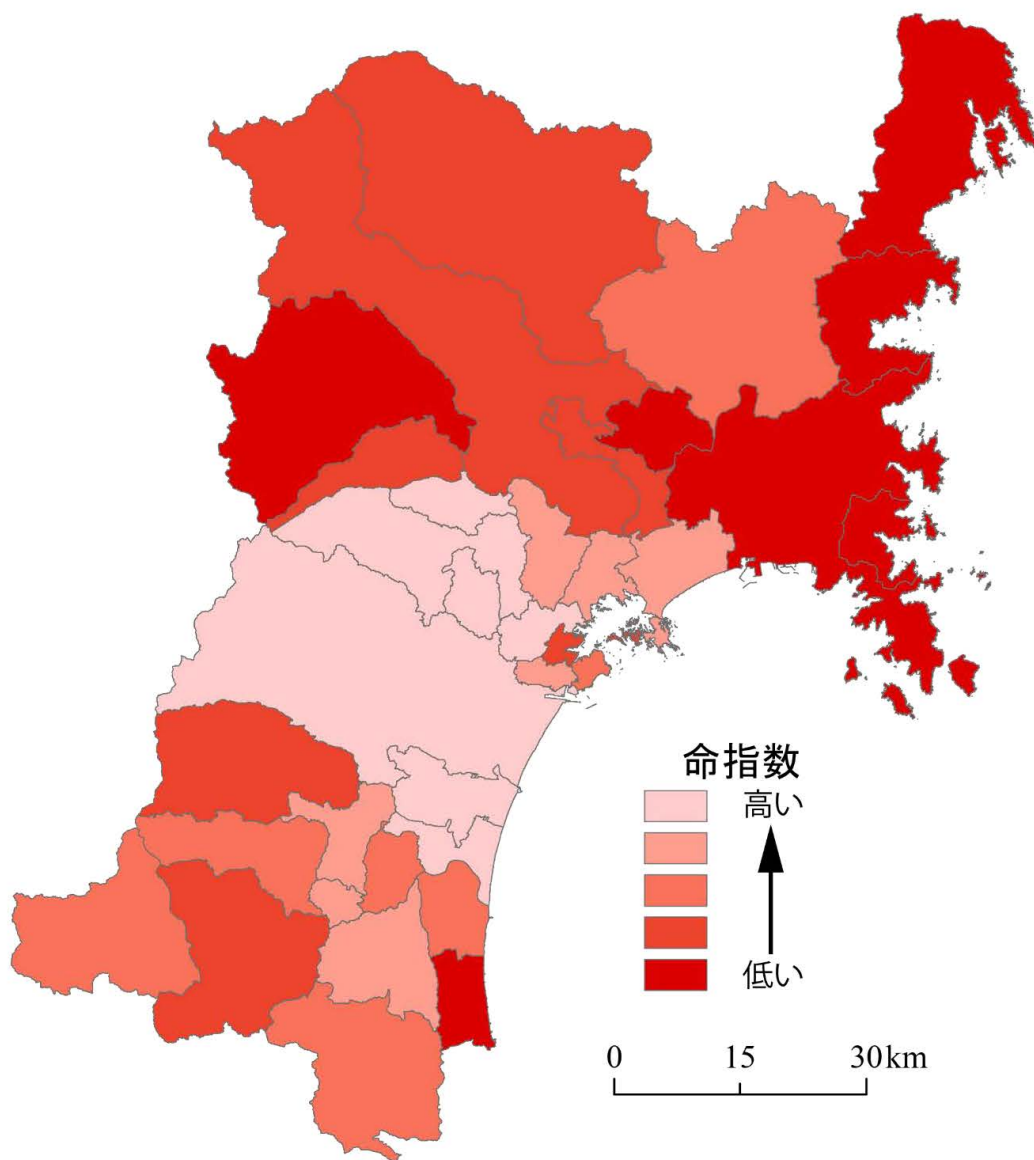


| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 1 | 富谷市 | 0.605 |
| 2 | 利府町 | 0.557 |
| 3 | 大和町 | 0.535 |
| 4 | 大衡村 | 0.532 |
| 5 | 仙台市 | 0.530 |
| 6 | 七ヶ宿町 | 0.528 |
| 7 | 名取市 | 0.515 |
| 8 | 南三陸町 | 0.510 |
| 9 | 角田市 | 0.508 |
| 10 | 岩沼市 | 0.495 |
| 10 | 登米市 | 0.495 |
| 12 | 大河原町 | 0.493 |

| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 13 | 丸森町 | 0.485 |
| 14 | 栗原市 | 0.483 |
| 15 | 大郷町 | 0.482 |
| 16 | 川崎町 | 0.481 |
| 17 | 蔵王町 | 0.480 |
| 18 | 女川町 | 0.476 |
| 19 | 色麻町 | 0.474 |
| 20 | 白石市 | 0.472 |
| 21 | 柴田町 | 0.466 |
| 22 | 加美町 | 0.465 |
| 23 | 東松島市 | 0.462 |
| 24 | 亘理町 | 0.461 |

| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 25 | 気仙沼市 | 0.454 |
| 26 | 多賀城市 | 0.451 |
| 26 | 松島町 | 0.451 |
| 28 | 石巻市 | 0.449 |
| 29 | 七ヶ浜町 | 0.448 |
| 30 | 塩竈市 | 0.447 |
| 31 | 美里町 | 0.441 |
| 32 | 大崎市 | 0.440 |
| 33 | 山元町 | 0.437 |
| 34 | 村田町 | 0.435 |
| 35 | 涌谷町 | 0.429 |

宮城県の人間の安全保障指数（命指数）

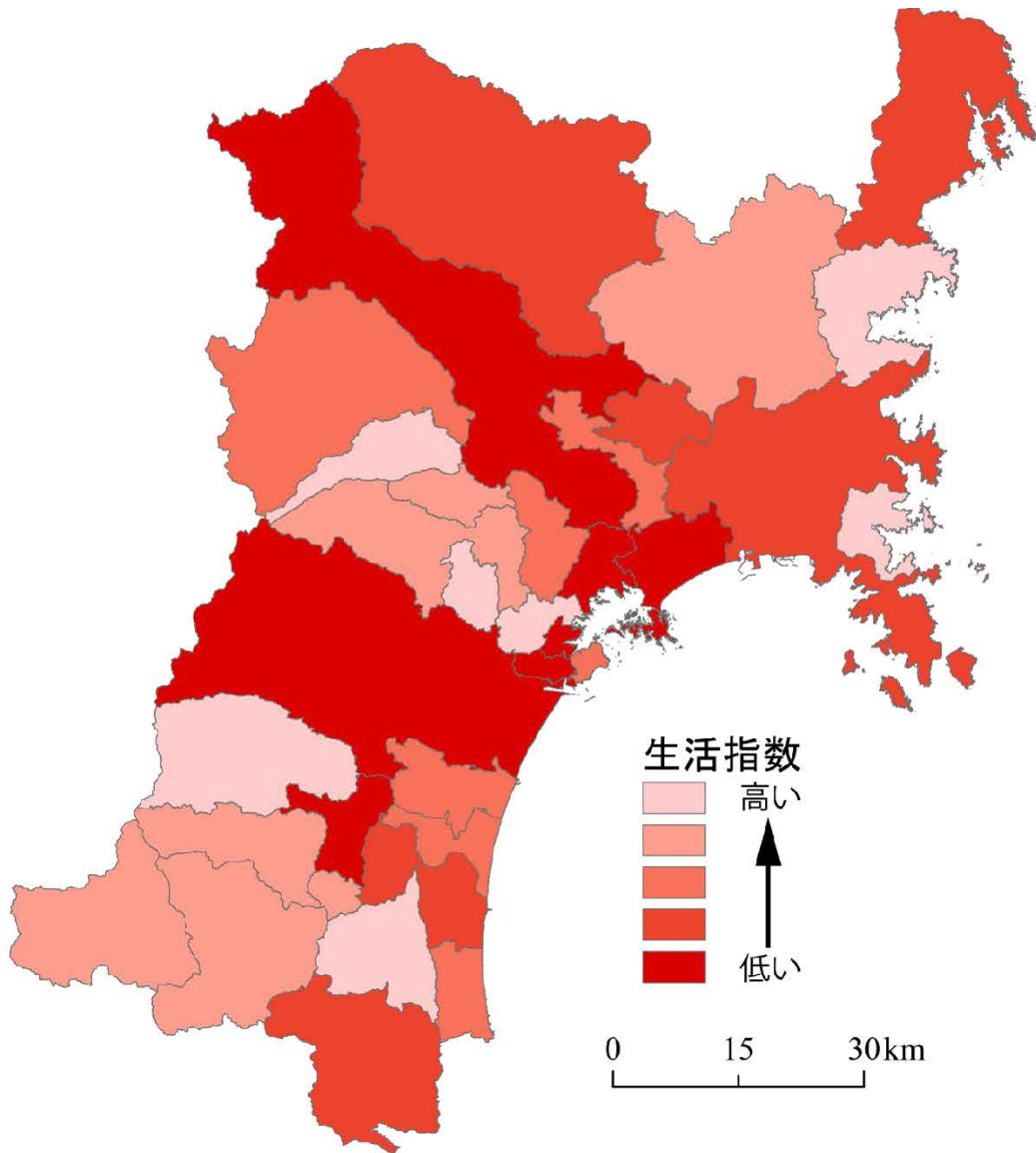


| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 1 | 富谷市 | 0.791 |
| 2 | 利府町 | 0.730 |
| 3 | 仙台市 | 0.719 |
| 4 | 大衡村 | 0.703 |
| 5 | 大和町 | 0.684 |
| 6 | 岩沼市 | 0.630 |
| 7 | 名取市 | 0.629 |
| 8 | 大河原町 | 0.601 |
| 9 | 多賀城市 | 0.592 |
| 10 | 大郷町 | 0.575 |
| 11 | 東松島市 | 0.539 |
| 12 | 松島町 | 0.537 |

| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 13 | 村田町 | 0.532 |
| 14 | 角田市 | 0.527 |
| 15 | 登米市 | 0.523 |
| 16 | 亘理町 | 0.519 |
| 17 | 七ヶ浜町 | 0.515 |
| 18 | 蔵王町 | 0.511 |
| 19 | 丸森町 | 0.503 |
| 20 | 柴田町 | 0.502 |
| 21 | 七ヶ宿町 | 0.492 |
| 22 | 川崎町 | 0.479 |
| 23 | 栗原市 | 0.477 |
| 24 | 色麻町 | 0.466 |

| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 25 | 塩竈市 | 0.465 |
| 26 | 大崎市 | 0.464 |
| 26 | 美里町 | 0.464 |
| 28 | 白石市 | 0.461 |
| 29 | 涌谷町 | 0.452 |
| 30 | 加美町 | 0.448 |
| 31 | 石巻市 | 0.435 |
| 32 | 山元町 | 0.408 |
| 33 | 南三陸町 | 0.399 |
| 34 | 気仙沼市 | 0.396 |
| 35 | 女川町 | 0.347 |

宮城県の人間の安全保障指数（生活指数）

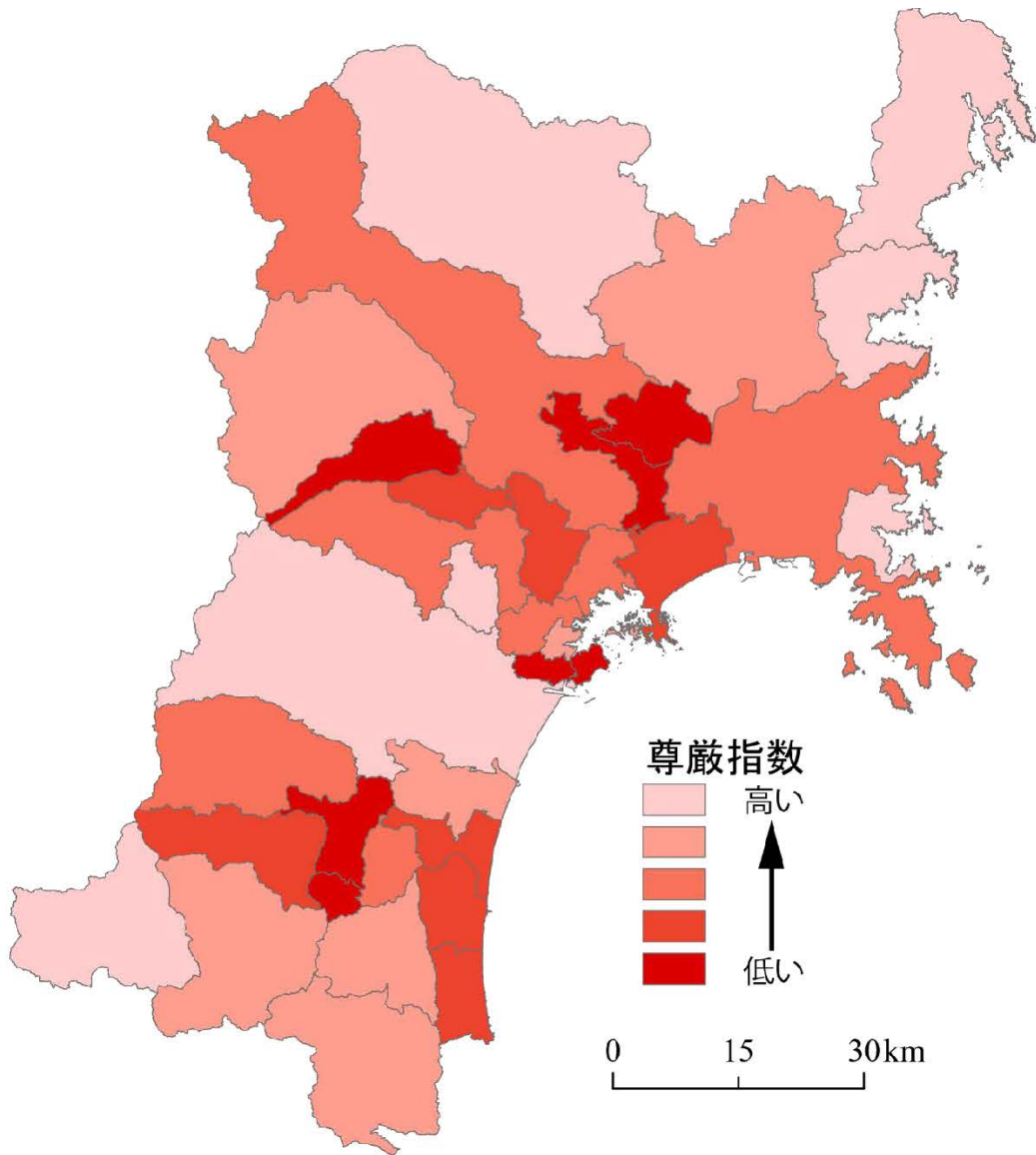


| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 1 | 富谷市 | 0.558 |
| 2 | 色麻町 | 0.550 |
| 3 | 南三陸町 | 0.547 |
| 4 | 角田市 | 0.537 |
| 5 | 女川町 | 0.534 |
| 6 | 利府町 | 0.530 |
| 7 | 川崎町 | 0.529 |
| 8 | 大和町 | 0.526 |
| 9 | 蔵王町 | 0.523 |
| 10 | 大河原町 | 0.521 |
| 11 | 七ヶ宿町 | 0.518 |
| 12 | 登米市 | 0.516 |

| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 13 | 大衡村 | 0.511 |
| 14 | 白石市 | 0.501 |
| 15 | 美里町 | 0.500 |
| 16 | 加美町 | 0.499 |
| 17 | 七ヶ浜町 | 0.498 |
| 18 | 大郷町 | 0.497 |
| 19 | 山元町 | 0.492 |
| 20 | 岩沼市 | 0.490 |
| 21 | 名取市 | 0.488 |
| 21 | 丸森町 | 0.488 |
| 23 | 栗原市 | 0.487 |
| 24 | 涌谷町 | 0.485 |

| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 25 | 気仙沼市 | 0.484 |
| 26 | 石巻市 | 0.478 |
| 27 | 柴田町 | 0.475 |
| 27 | 亶理町 | 0.475 |
| 29 | 東松島市 | 0.462 |
| 30 | 大崎市 | 0.453 |
| 31 | 仙台市 | 0.452 |
| 32 | 多賀城市 | 0.450 |
| 33 | 塩竈市 | 0.441 |
| 34 | 村田町 | 0.429 |
| 35 | 松島町 | 0.426 |

宮城県の人間の安全保障指数（尊厳指数）

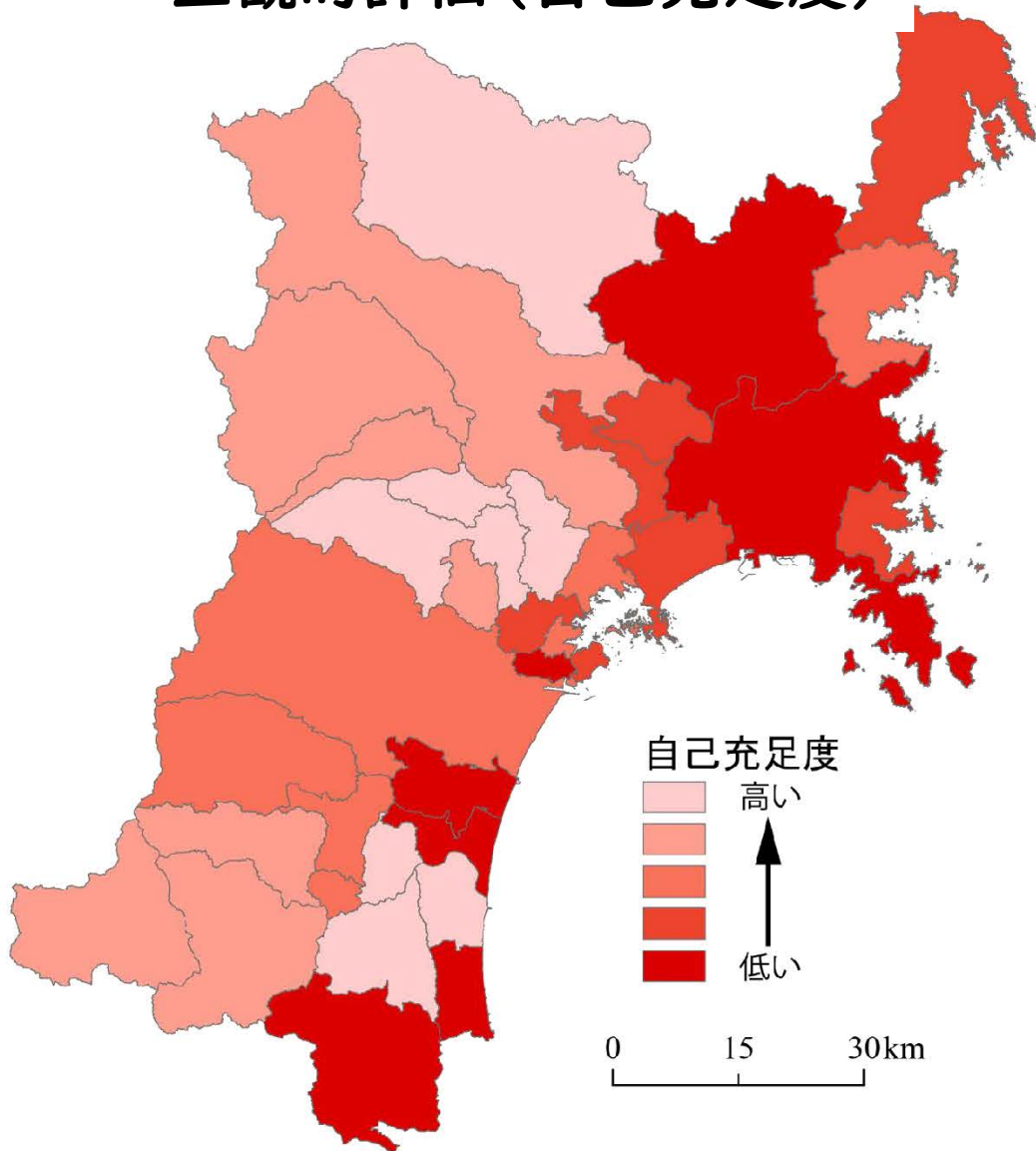


| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 1 | 七ヶ宿町 | 0.593 |
| 2 | 南三陸町 | 0.569 |
| 3 | 女川町 | 0.516 |
| 4 | 栗原市 | 0.481 |
| 5 | 富谷市 | 0.476 |
| 6 | 仙台市 | 0.463 |
| 7 | 気仙沼市 | 0.460 |
| 8 | 丸森町 | 0.459 |
| 9 | 塩竈市 | 0.439 |
| 10 | 名取市 | 0.432 |
| 11 | 白石市 | 0.425 |
| 12 | 角田市 | 0.424 |

| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 13 | 登米市 | 0.419 |
| 14 | 加美町 | 0.415 |
| 15 | 石巻市 | 0.404 |
| 16 | 柴田町 | 0.403 |
| 17 | 利府町 | 0.402 |
| 18 | 松島町 | 0.396 |
| 19 | 大崎市 | 0.385 |
| 20 | 川崎町 | 0.383 |
| 21 | 大和町 | 0.373 |
| 22 | 東松島市 | 0.368 |
| 22 | 大衡村 | 0.368 |
| 24 | 山元町 | 0.362 |

| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 25 | 亶理町 | 0.361 |
| 26 | 蔵王町 | 0.355 |
| 27 | 岩沼市 | 0.341 |
| 28 | 大郷町 | 0.336 |
| 29 | 村田町 | 0.330 |
| 30 | 色麻町 | 0.329 |
| 31 | 大河原町 | 0.306 |
| 32 | 美里町 | 0.293 |
| 33 | 涌谷町 | 0.287 |
| 34 | 多賀城市 | 0.283 |
| 35 | 七ヶ浜町 | 0.264 |

主観的評価（自己充足度）



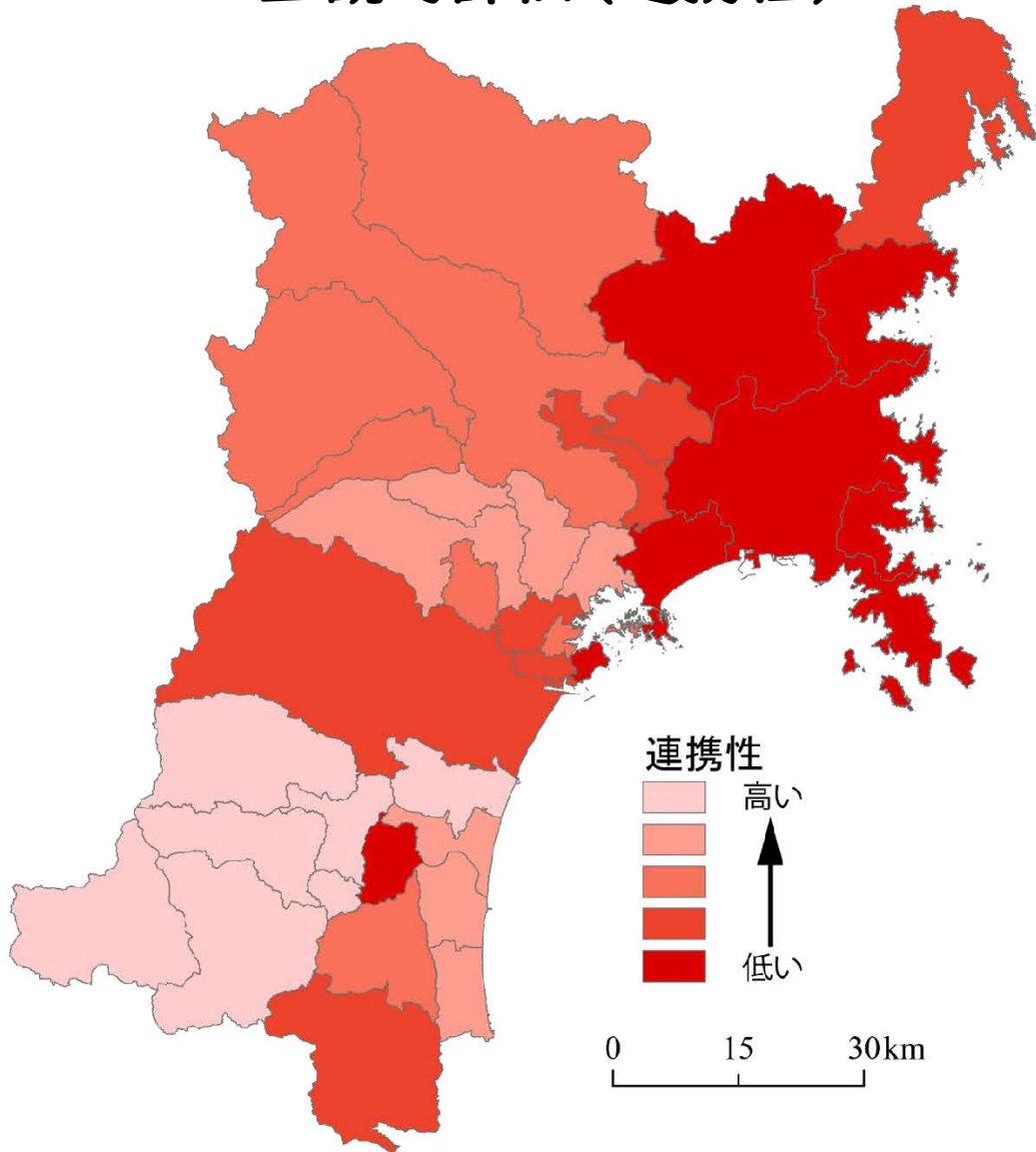
| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 1 | 角田市 | 0.058 |
| 2 | 大和町 | 0.122 |
| 2 | 大郷町 | 0.122 |
| 2 | 大衡村 | 0.122 |
| 5 | 亘理町 | 0.228 |
| 6 | 栗原市 | 0.253 |
| 7 | 柴田町 | 0.275 |
| 8 | 白石市 | 0.284 |
| 8 | 蔵王町 | 0.284 |
| 8 | 七ヶ宿町 | 0.284 |
| 11 | 大崎市 | 0.308 |
| 12 | 色麻町 | 0.323 |

| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 13 | 加美町 | 0.323 |
| 14 | 富谷市 | 0.330 |
| 15 | 南三陸町 | 0.395 |
| 16 | 塩竈市 | 0.400 |
| 17 | 松島町 | 0.403 |
| 18 | 仙台市 | 0.411 |
| 19 | 大河原町 | 0.416 |
| 19 | 村田町 | 0.416 |
| 19 | 川崎町 | 0.416 |
| 19 | 気仙沼市 | 0.416 |
| 23 | 七ヶ浜町 | 0.459 |
| 24 | 利府町 | 0.464 |

| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 25 | 涌谷町 | 0.465 |
| 25 | 美里町 | 0.465 |
| 27 | 東松島市 | 0.477 |
| 28 | 石巻市 | 0.527 |
| 28 | 女川町 | 0.527 |
| 30 | 岩沼市 | 0.530 |
| 31 | 名取市 | 0.535 |
| 32 | 登米市 | 0.545 |
| 33 | 山元町 | 0.566 |
| 34 | 丸森町 | 0.583 |
| 35 | 多賀城市 | 0.727 |

「自分の人生に満足していない」、「自分の将来が今より良くなるとは思わない」、「生きがいを感じることが何もない」、「自分が誇りに思うことは何もない」と回答した人の割合の平均値を小さい順に配列。平均値が低いほど住民の自己充足度が高いと考えられる。

主観的評価(連携性)



| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 1 | 名取市 | 0.184 |
| 2 | 白石市 | 0.226 |
| 2 | 蔵王町 | 0.226 |
| 2 | 七ヶ宿町 | 0.226 |
| 5 | 大河原町 | 0.230 |
| 5 | 村田町 | 0.230 |
| 5 | 川崎町 | 0.230 |
| 8 | 亘理町 | 0.262 |
| 9 | 大和町 | 0.272 |
| 9 | 大郷町 | 0.272 |
| 9 | 大衡村 | 0.272 |
| 12 | 山元町 | 0.293 |

| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 13 | 松島町 | 0.310 |
| 14 | 岩沼市 | 0.327 |
| 15 | 栗原市 | 0.333 |
| 16 | 角田市 | 0.344 |
| 17 | 大崎市 | 0.349 |
| 18 | 塩竈市 | 0.354 |
| 19 | 富谷市 | 0.362 |
| 20 | 色麻町 | 0.378 |
| 20 | 加美町 | 0.378 |
| 22 | 涌谷町 | 0.397 |
| 22 | 美里町 | 0.397 |
| 24 | 仙台市 | 0.406 |

| 順位 | 自治体名 | 指数 |
|----|------|-------|
| 25 | 利府町 | 0.448 |
| 26 | 多賀城市 | 0.482 |
| 27 | 気仙沼市 | 0.491 |
| 28 | 丸森町 | 0.514 |
| 29 | 南三陸町 | 0.517 |
| 30 | 登米市 | 0.523 |
| 31 | 東松島市 | 0.530 |
| 32 | 石巻市 | 0.561 |
| 32 | 女川町 | 0.561 |
| 34 | 七ヶ浜町 | 0.585 |
| 35 | 柴田町 | 0.710 |

「困ったときに相談する人が誰もいない」、「孤独でつらい」、「人を助けたことはない」と回答した人の割合の平均値を小さい順に配列。平均値が低いほど住民間の社会的連携が強いと考えられる。

結論と提言

1. **総合計画**:多くの自治体の総合計画は、SDGsを踏まえたものになっていない。関連付けしていても環境や経済の持続可能性が中心で、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」包括性、尊厳が十分反映されていない。

提言1:自治体の総合計画や実施計画の策定・見直しにあたっては、SDGsの目指す持続可能性とともに、「誰一人とり残されないまちづくり」をめざし、一人一人の尊厳の視点をより重視した内容とする。

2. **細分化した統計**:多くの統計が、性別、年齢別、障害の有無などで細分化されていないか、公表されていない。また、多くの場合、現状と目指す目標が可視化されていないので、進捗状況をモニターできない。

提言2:細分化した統計を整備し、達成をめざす数値目標を設定する。

例:相対的貧困率と子どもの貧困率は、できれば市町村別に、少なくとも宮城県レベルでは算出・公表して、その着実な削減に向け施策を強化する。

例:保育所待機児童ゼロ早期達成年度を設定する。

例:市町村下水道の耐震率向上

3. **経済・雇用**:少子高齢化に加えて若者の流出が激しく、仙台都市圏以外の内陸部と沿岸部では人口減少が急速に進行しているが、効果的な対策がとれている自治体は多くない。

提言3:民間連携で雇用を拡大し、転入者を意識した行政サービスを充実させ、若者とりわけ女性が移住・定住、あるいは「帰りたい」と感じるような町づくりを目指す。

例:農林漁業、手工業、観光業の高付加価値化、ブランド化を推進する。

例:高等教育機関と連携し、先端産業の誘致と定着を促進し、産業の裾野を広げる。

例:移住・定住政策にジェンダー平等の観点を盛り込む。

例:移住・定住支援のワンストップサービス

4. **災害復興・防災**:東日本大震災からの再建・復興の大規模なインフラ整備は概ね完了しようとしているが、被災地の復興後の将来像は必ずしも明らかになっておらず、地域差が大きい。

提言4:被災地のひとりひとりが置かれた状況に注目し、「誰も取り残されない」の理念を目標にして、被災地の人、地域の誇りを尊重し、人のつながりと地域の結びつきを強める。

例:震災の記憶・教訓を次世代に伝承する

(例:石巻南浜津波復興祈念公園、南三陸町震災復興祈念公園など多数)

例:被災者の心の傷を癒し、心のケアに配慮して、誰一人取り残されないまちの復興を持続的に目指す。

例:緊急事態に備えて、住民が自治体と協働して、地域、近隣市町村との連携を平時から準備して、強靱性(社会関係資本)を高める。

例:地域のハブとしての学校の機能を強める。宮城県志津川高校(南三陸町)の魅力化構想は町の発展にとって重要である。

5. **子どもに対する暴力**:虐待、いじめ、不登校が、多くの自治体で深刻な課題であり、子どもの権利条約で認められた「権利」として、対策の強化が必要である。

提言3:子どもに対する暴力をなくすために、家庭、教育の場および地域レベルで、子どもの尊厳を重視した取り組みを強化する。

例:学校教育の中で、子どもの権利条約(内容をわかりやすく説明した子ども版)を学ぶ機会を設ける。

例:いじめ、不登校に対する取り組みを従来に倍加して強化する。取り組みの効果を評価するためにも、自治体ごとのいじめ件数、不登校生徒数の公表を検討する。

例:児童虐待に関する児童相談所の対応体制を強化し、子どもホットラインや、子どもの遊び場、学校の外での居場所作りで活動するNPOへの公的支援を強化する。

6. **住民が主役のまちづくり**:各自治体では、住民の意見を聴取するよう努力しているが、住民と行政との協働を通じて、住民の意見が政策決定に反映される真の住民参加を実現する必要がある。

提言6:子どもや女性など当事者の意見を聴くにとどめるのではなく、施策に反映させる。子どもにやさしいまちは、誰にでもやさしいまちになる。

例:ユニセフ「こどもにやさしいまちづくり事業」に参加する。

例:ユネスコスクール指定校を増やし、環境教育とともに、SDGsの尊厳に関する教育に拡充する。

例:女性、ひとり親、障害者、被災者、LGBTQ、外国人などの意見を直接吸い上げる。

例:官民による「多文化共生まちづくり会議」(仮称)の設立を検討する。

7. **男女共同参画**:各自治体の取り組みにもかかわらず、依然として雇用、賃金、家事分担、議員、管理職、審議会・防災会議などで男女格差が根強い。また、女性は、子育て支援の関連で取り上げられることが殆んどで、ジェンダー格差の解消を意識した取り組みが少ない。

提言7:各自治体の男女共同参画計画、子育て支援の施策に、ジェンダーの視点をもっと重視する。

例:男性の育児休暇取得率の向上

例:議員、審議会、防災会議などの女性委員30%を当面の目標とする。

8. **自治体行政の体制**:中央官庁との連携、また条例や予算執行の観点から、縦割り行政を基本としているが、子どもや女性の支援をみても、包括的、多面的な取り組みが不可欠である。一部の自治体に、横断的取り組みを行っている例もあるが、いまだ例外的である。

提言8:行政の縦割りを横断した取り組みを推進する(子どもの教育・福祉、女性の子育て・就業・虐待暴力等)

例:子ども支援や高齢者支援に関して包括的業務をおこなう子ども支援センター、高齢者包括支援センター

9. **地域密着型の共助**:少子高齢化、人口減を抱える自治体では、地縁団体やみやぎ生協などの地域の組織、NPO、企業などが公助を補完して、きめ細かな住民サービスを展開しており、今後ますます地域密着型の共助が求められる。

提言9:地域密着型の組織やNPOなどの市民社会による共助活動を奨励・支援し、自治体の活動との協働を図る。

例:包括ケアシステム

例:NPOや住民主体の活動、高齢単身者の見守り、買い物支援、

例:コンパクトなまちづくり、生活圏を共有する近隣自治体との協働

10. **発信力**:宮城県は、山から里、海へと変化にとんだ、美しい豊かな自然、歴史・文化に恵まれており、各自治体はその魅力の発信に努めているが、アピールが効果的ではない例もみられる。

提言10:市町村の交流人口・移住定住の魅力に関する国内外への発信のインパクトを高め、広域連携などにより強化する。

例:テレワークも含め雇用の機会を増やし、社会的移動の増加を目指す。

例:外国人が住みやすい県というイメージが定着するよう努力する。

例:東北、関東圏を超え、関西、西日本からの観光・移住定住、外国人の誘致

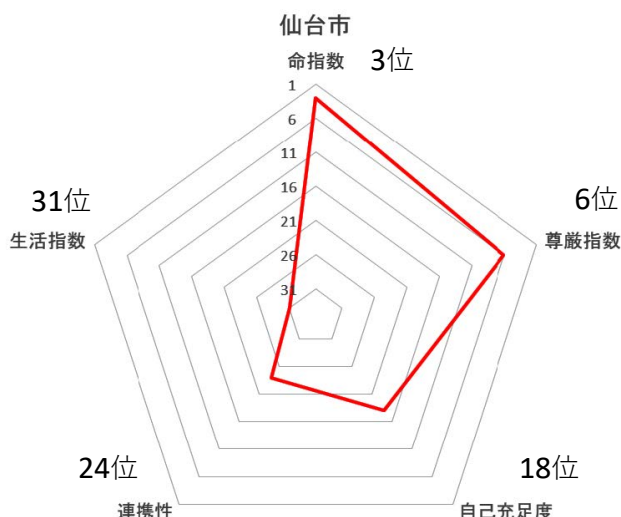
宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

1 仙台市

総合指数: 第5位

人口106万5,771人(1位)
推計人口101万5,478人(2035年)
面積 786.4km²

命指数3位、尊厳指数6位は高位であるが、生活指数が31位と極めて低い。主観的な自己充足度18位、連携性は24位と高くない。



生命・健康: 平均寿命(男2、女2)、健康寿命(男6、女8)ともに良好。生産年齢人口(1)、転入率(3)、人口増減率(5)、男性未婚率(5)、高齢化率(5)、ひとり親世帯の子どもの数(5)、自殺死亡率(7)、病院・診療所の数(5)、医師の数(1)、産婦人科医(1)、一人当たり医療費(4)、運動習慣(1)、一日の歩数(1)など、ほとんど上位で、健康環境・意識が良好である。しかし、女性未婚率は高く(34)、子どもの医療費助成(32)の改善が求められる。

経済産業・雇用: 一人当たり所得(4)、地域再生計画認定数(1)、障害者雇用率(5)、財政力指数(3)が良好であるが、高齢者有業率(33)は低い。

教育: 仙台市のいじめの認知件数は、千人当たり170.9件(実数13,767件)と極めて高く、不登校問題と並び、深刻な問題。待機児童(35)が最も多く、教員当たり小学校児童数(31)、中学校生徒数(31)、高校生生徒数(28)も多く、一人当たり教育費(30)が低く、就学援助受給率(33)が高く、子ども・教育の向上が大きな課題。肥満傾向の子どもは少ない(小6(1)、中2(2))。

福祉: 児童養護施設の数(1)、特老施設入所希望者の割合(7)は良好だが、児童相談件数(35)、生活保護受給率(35)が最も多く、介護保険料(29)も高い。生活保護のケースワーカーの数の更なる拡充が課題。

生活環境: 再生可能エネルギーの発電量(2)、汚水処理率(4)は良好だが、住宅の高齢者設備(32)、住宅延べ面積(35)、持ち家比率(34)、自動車保有台数(31)、刑法犯罪認知件数(30)が低位。

尊厳・公の信頼・ジェンダー: 里親委託児童(1)、男女共同参画の推進(3)、女性議員の割合(4)、審議会等の女性委員の割合(5)、自治会長の女性の割合(1)のいずれも良好。ただ、選挙投票率(31)は低い。

地域の連帯・国際性: 外国人の割合(7)、留学生数(1)が多く国際性が高いが、地縁団体の数(30)は少ない。

総合計画とSDGsの関係;「挑戦を続ける、新たな杜の都へ〜”The Greenest City“ SENDAI」がまちづくりの理念。多様性を尊重し、認め合い包摂される社会、心の伴走、笑顔咲く子どもプロジェクトなど、SDGsを意識して作成されている。しかし、数値目標は限定的で、子どもの貧困率、虐待、いじめや不登校数などの数値目標はない。SDGsの尊厳を具体的な目標に落とし込む努力が期待される。

優先課題: 生活保護受給率、就学援助率、いじめ、不登校、子どもの居場所

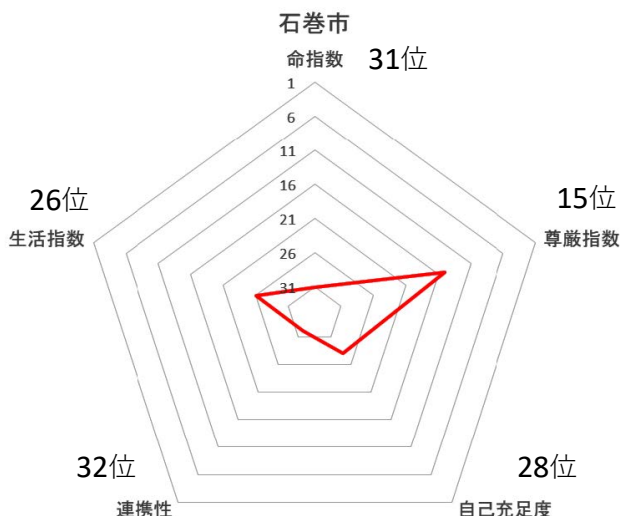
宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

2 石巻市

総合指数:第28位

人口14万704人(2位)
推計人口10万7,494人(2035年)
面積 554.6km²

命指数31位、生活指数26位と低く、尊厳指数15位と中位。主観的な自己充足度28位と連携性32位は、客観的データとほぼ近似した結果。



生命・健康:平均寿命(男31位、女30位)、健康寿命(男24位、女14位)ともに低位。医師の数(6)、産婦人科医(2)、運動習慣(3)が良好。ひとり親世帯の子ども割合(31)が高く、自然災害で多数の死者数(31)を出した。健康診断受診率(34)の向上が課題。

経済産業・雇用:所得300万円未満世帯(単身世帯を除く)(32)、国民年金保険料の全額免除(32)ともに多く、貧困率の高さがうかがわれる。女性人口の就業者割合(34)、高齢者有業率(29)が低く、経済の活性化、雇用機会増大が課題。

教育:一人当たり教育費(4)、生涯教育の機会(5)は良好。

福祉:児童養護施設の数(5)は上位であるが、児童相談件数(29)が多く、生活保護受給率(31)、特老施設入所希望者の割合(30)が高い。生活保護のケースワーカーの数の拡充が課題。

生活環境:最も長い日照時間(1)を利用した再生可能エネルギーの発電量(1)が最も多い。住宅の高齢者設備率(2)は高いが、持ち家比率(29)は低い。自然災害による住居被害(31)が多いが、防災拠点となる公共施設の耐震率(31)は100%に到達していない。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:男女共同参画の推進(1)を重視している。里親委託児童(2)も多い。選挙投票率(31)は低い。

地域の連帯・国際性:地域の絆が強く、NPO団体や技能実習生も多い。

総合計画とSDGsの関係:「食を生かした元気な石巻、若い人がチャレンジできるまち」がまちづくりの理念。SDGs目標との関連を意識し、SDGs未来都市やゲームとの連携事業など次世代に寛容なまちとしての魅力をアピール。しかし、SDGsモデル事業は環境分野に限られ、SDGsの理念である子どもや女性の尊厳の側面が弱い。

優先課題:震災復興、防災拠点となる公共施設の耐震率、人口減少、交流人口・移住定住の増加、生活保護受給率、子どもの居場所

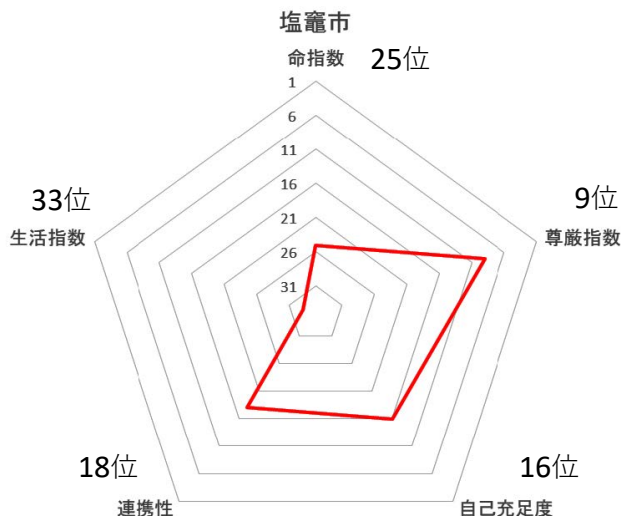
宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

3 塩竈市

総合指数:第30位

人口5万3,446人(9位)
推計人口4万2,409人(2035年)
面積17.4km²

生活指数33位、命指数25位と低いが、
尊厳指数9位は高い。主観的な自己充足度16位と連携性18位は、やや高い。



生命・健康:平均寿命(男32位、女25位)は低位だが、健康寿命(男8位、女13位)は良好。運動習慣(6)、一日の歩数(2)は良好。しかし、出生率が低く(30)、女性未婚率(32)が高い。ひとり親世帯の子どもの割合(34)、高齢者単身世帯(32)が多く、病院・診療所の数(29)が少なく、一人当たり医療費(34)が高い。健康診断受診率(29)、喫煙率(32)の改善が課題。

経済産業・雇用:世帯当たり購買額(5)は多いが、国民年金保険料の全額免除(30)が高く、完全失業率(31)、高齢者有業率(31)など雇用に課題が大きい。

教育:不登校率が高い傾向にあるので、取り組みの強化が課題。生涯教育の機会(1)が最も多く、肥満傾向児童中2(7)が少ない。教員当たり小学校児童数(30)、高校生生徒数(29)が多く、小中学校のICT教育の環境(30)改善が急務。ユネスコスクールへの参加を期待。

福祉:生活保護のケースワーカーの数(5)は基準内であるが、生活保護受給率(33)が高いので継続した体制強化が必要。児童相談件数(28)が多く、児童養護施設が課題。

生活環境:汚水処理率(2)が高く、飲酒運転違反件数(4)が少ない。住宅延べ面積(29)が小さく、自動車保有台数(30)、コンビニ数(31)が少ない。消防団員の充足率(35)が最も低いのは防災の観点から早急な改善が課題。刑法犯罪認知件数(31)が多い。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:男女共同参画の推進(7)を重視し、女性議員の割合(5)、自治会長の女性の割合(3)が高い。他方、子どもの虐待相談件数(30)、女性の自殺率(31)が課題。

地域の連帯・国際性:アンケート調査では、東日本大震災後の地域の絆が強まったとの回答(3)が多かったが、公民館数(31)は少ない。技能実習生(7)は多い。

総合計画とSDGsの関係:「おいしさと笑顔がつどう、個性を大切に、食の都、多彩な新しい魅力、海、未来へつなぐ、港町」がまちづくりの理念。現在策定中の第6次計画には、SDGsの17目標を踏まえて計画を推進する基本構想。基本構想ではみんなが生き生きとしている町を謳うが、SDGsの理念である尊厳、ジェンダーは明確に出ていない。

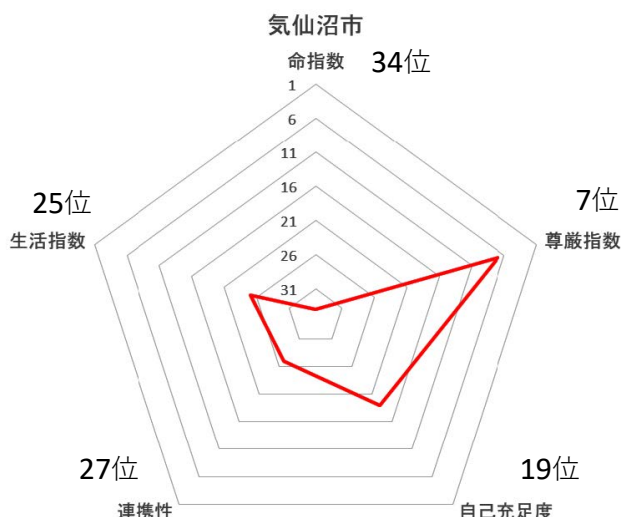
優先課題:人口減少、交流人口・移住定住の増加、雇用機会の拡大、生活保護受給率、不登校対策・子どもの居場所、小中学校のICT教育の環境、消防団員の充足率

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

4 気仙沼市 総合指数:第25位

人口6万1,376人(8位)
推計人口4万3,466人(2035年)
面積 332.4km²

命指数34位が極めて低く、生活指数は25位。尊厳指数7位がやや上位。主観的な自己充足度19位と連携性27位が、客観的データとほぼ近似した結果。



生命・健康:平均寿命(男35位、女31位)、健康寿命(男28位、女22位)ともに極めて低い。出生率が高く(4)、交通事故死傷者数(5)が少ない。他方、子どもの割合(29)、生産年齢人口(31)が少なく、転出率(29)が高く(特に若年層女性)、高齢化率(29)が高く、少子高齢化が加速。ひとり親世帯の子どもの数(30)、自然災害による死者数(30)が極めて多い。病院・診療所の数(34)、医師の数(32)、健康診断受診率(30)、子どもの医療費助成(32)が下位で、健康面で課題が多い。

経済産業・雇用:一人当たり所得(3)、女性就業者の正規雇用率(5)が高い。世帯当たり購買額(34)は低く、所得300万円未満世帯(34)、国民年金保険料の全額免除(33)が極めて多く、貧困率が高いことが推定される。失業率(29)、女性人口の就業者割合(33)が低位で、女性の雇用機会の拡大が課題。

教育:ユネスコスクール(4)の先駆都市としてESD教育を率先して進めている。今後は、環境教育を超えて、SDGsの理念である尊厳、子どもの権利を教育の中で重視するよう期待。また、不登校数を発表して、対策を強化していることを評価。小中学校のICT教育の環境(31)の改善が課題。

福祉:児童養護施設の数(2)、介護保険料(3)は良好であり、生活保護のケースワーカーの数(3)は基準内にある。児童相談件数(30)は多く、特老施設入所希望者の割合(35)は最も高く、施設の拡充が大きな課題である。

生活環境:日照時間(3)が長い。住宅の高齢者設備(7)、自動車保有台数(2)は高位で、刑法犯罪認知件数(3)は少ない。他方、汚水処理率(35)が最も低い。自然災害による住居被害(30)が大きく、防災が最重要課題であり、消防団員の充足率(31)、防災拠点となる公共施設の耐震率(34)の早急な改善が課題。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:子どもの居場所(3)、男女共同参画の推進(7)、女性管理職員の割合(3)は良好であるが、女性議員の割合(29)の増加が課題。

地域の連帯・国際性:人の交流・移住定住の魅力の発信力が高い(2)。技能実習生(6)が多い。アンケート調査で、外国人が増えるのを歓迎する割合が低い(29)。

総合計画とSDGsの関係:「世界へつながる豊かなローカル」がまちづくりの理念。後期計画では、SDGsをとりいれた町づくりを構想。しかし、SDGsを梃子に社会を変革する、水産業の活性化を図る視点が弱い。誰もが自分らしさを活かし、おもいやり支える町、女性が活躍する町を謳うが、一層の尊厳の視点の強化が求められる

優先課題:健康寿命、交流人口の増加、移住定住の促進、高齢化率、経済の活性化、女性の雇用機会、公共施設の耐震率、汚水処理率、子どもの居場所

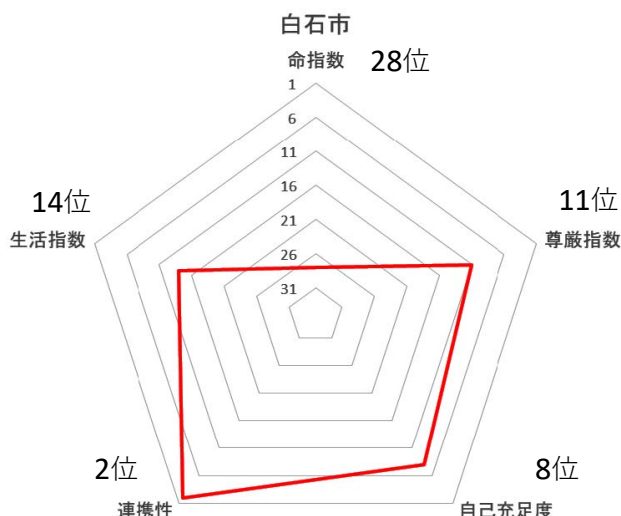
宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

5 白石市

総合指数:第20位

人口3万3,064人(16位)
推計人口2万5,888人(2035年)
面積 286.5km²

命指数28位は低いが、生活指数14位、
尊厳指数11位は中位。主観的な自己
充足度8位と連携性2位で、人生を楽観
視する人が多い。



生命・健康:平均寿命(男19位、女19位)、健康寿命(男12位、女24位)ともに中位。自殺死亡率(3)、自然災害による死者数(6)、国民健康保険一人当たり納付額(1)は良好。男性未婚率(31)が高く、一人当たり医療費(31)、12歳時喪失歯数(30)が多く、健康診断受診率(33)は低く、これらの改善が課題。

経済産業・雇用:世帯当たり300万円未満世帯(単身世帯を除く)、年金保険料の全額免除が多く(ともに28)、貧困率が高いことが推定される。労働生産性も高くない(26)。

教育:ユネスコスクール指定校(3)は多いが、一人当たり教育費(29)、小中学校のICT教育の環境(33)の改善が課題。

福祉:介護保険料(6)、特老施設入所希望者の割合(3)は良好で、生活保護のケースワーカーの数(4)は基準内。児童養護施設の設置が検討課題。

生活環境:再生可能エネルギーの発電量(6)、自動車保有台数(4)が多い。飲酒運転違反件数(5)は少ない。一人当たりCO2排出量(30)の削減が課題。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:選挙投票率(5)が高く、女性管理職員の割合(4)も高水準。他方で、子どもの虐待相談件数(32)、未成年の自殺率(34)が多く、子どもの尊厳に課題。女性議員、女性の自治会長が皆無であり、改善が課題である。

地域の連帯・国際性:アンケート調査によれば、東日本大震災後の地域の絆(7)が強まり、外国人の増加を歓迎する割合(2)も高い。

総合計画とSDGsの関係:「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」がまちづくりの理念。持続可能な多機能型自治の形成を目指すとして、関連するSDGs目標を規定。しかし、数値目標は極めて限定的。ふるさとに愛着と誇りにもてる(シビックプライド)まちづくり、多文化多世代の共生、多様性を認め合う取り組みは評価される。

優先課題:人口減少、少子高齢化、移住定住の促進、地域格差、雇用機会、子どもの虐待、子どもの居場所、女性議員、女性の自治会長

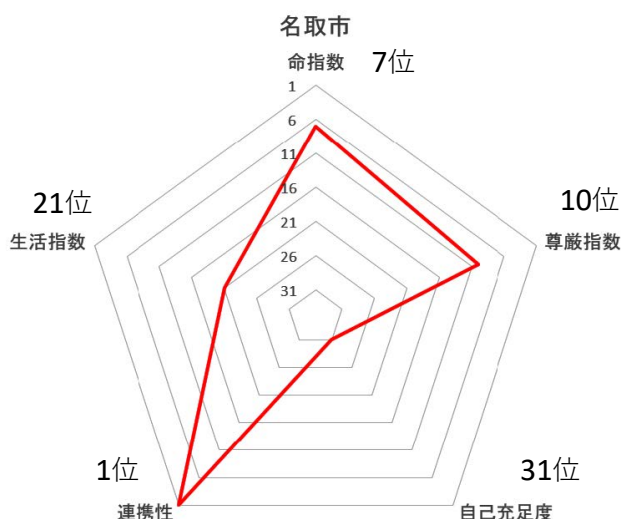
宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

6 名取市

総合指数:第7位

人口7万9,565人(4位)
推計人口8万769人(2035年)
面積 98.2km²

命指数7位、尊厳指数10位は高いが、生活指数21位がやや低い。主観的な自己充足度31位は極めて低いが、連携性1位は最も強い。



生命・健康:平均寿命(男10位、女14位)、健康寿命(男7位、女16位)ともに男性の方が良好。出生率が高く(7)、子どもの割合(2)、生産年齢人口(5)が多い。交通に便利で転入率(5)も高く、人口は増加、若い世代が多く、高齢化率(3)が低い。他方で、交通事故死傷者数(34)の削減が課題。男性未婚率(4)が低く、高齢者単身世帯(4)、ひとり親世帯の子どもの数(2)も少ない。病院・診療所の数(7) 医師の数(1)が多く、喫煙率(7)が低く、運動習慣(6)、一日の歩数(2)が多く、健康意識が高い。国民健康保険一人当たり納付額(33)が高いことが課題。

経済産業・雇用:一人当たり所得(7)が高く、所得300万円未満世帯(6)、国民年金保険料の全額免除(4)が少なく、貧困率が低いと推定される。正規雇用者の割合(4)が高く、財政力が高い(6)。

教育:生涯教育の機会(5)が多く、肥満傾向の児童が少ない(小6(4)、中2(5))。他方、待機児童数(33)の解消が重要な課題。教員当たり小学校児童数(32)、中学校生徒数(35)も多い。ユネスコスクール(0)への参加を期待。

福祉:児童養護施設(2)は良好で、生活保護受給率(3)は低いが、特老施設入所希望者の割合(33)が高く、施設の拡充が課題。また、生活保護ケースワーカーの数は基準を下回る。

生活環境:住宅の高齢者設備(6)は多く、一人当たりCO2排出量(6)、飲酒運転違反件数(6)が少ない。他方、住宅延べ面積(32)、自動車保有台数(34)、コンビニ数(30)は低位、消防団員の充足率(32)の改善が課題、刑法犯罪認知件数(32)が多い。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:男女共同参画の推進(3)を重視し、女性議員の割合(3)が多い一方、女性の管理職員の割合(29)の向上が課題。未成年の自殺率(33)が高い。

地域の連帯・国際性:アンケート調査では、東日本大震災後の地域の絆(6)が強まったとの回答が多い。

総合計画とSDGsの関係:「愛されるふるさと なとリー共に創る、未来へつなぐ」がまちづくりの理念。分野目標とSDGs目標を関連付け、成果目標を数値化し、達成への課題・問題点を列記している。外国人を含め多様性を認め合う共生社会を強調。ただ、持続可能なまちとして、財政や環境を主として念頭に置いている。

優先課題:少子化・子育て支援、防災・減災、消防団員、女性・高齢者の就労機会、交通事故死傷者、女性の管理職、未成年の自殺率

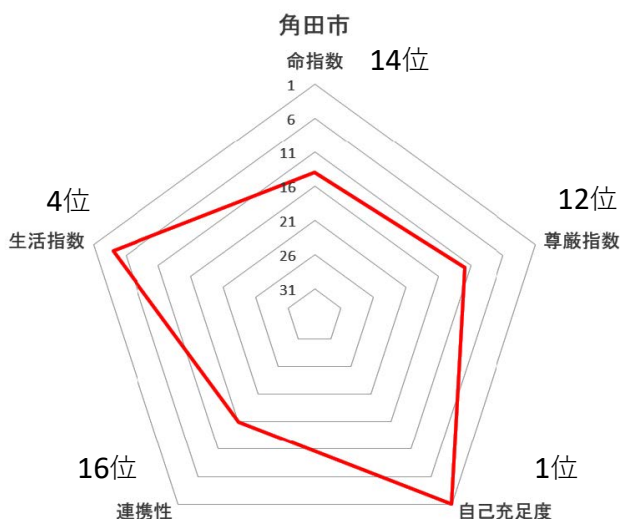
宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

7 角田市

総合指数:第9位

人口2万8,194人(18位)
推計人口2万3,282人(2035年)
面積 147.5km²

生活指数4位は高いが、命指数14位、
尊厳指数12位は中位。主観的な自己
充足度1位で人生を楽観視する人が多
い。連携性は16位。



生命・健康:平均寿命(男26位、女11位)、健康寿命(男29位、女19位)ともに男性が低い。自然災害による死者数(7)は少ない。国民健康保険一人当たり納付額(7)が低く、12歳時喪失歯数(3)も少なく、健康環境の良さを示している。出生率が低い(31)ことが課題である。

経済産業・雇用:女性就業者の正規雇用率(7)が高い。所得300万円未満世帯(29)が多く、世帯当たり購買額(29)が少ない。経済活動の活性化、雇用機会拡大の課題が大きい。

教育:待機児童はゼロで、就学援助受給率(5)が低く、ユネスコスクール指定校(5)が多い。一人当たり教育費(34)は低く、小中学校のICT教育の環境(29)の改善が課題。

福祉:生活保護受給率(2)は低く、特老施設入所希望者の割合(2)も低い。生活保護のケースワーカーの数(2)も良好。児童養護施設設置は課題。

生活環境:住宅延べ面積(7)が大きく、自動車保有台数(1)、消防団員の充足率(2)は極めて高い。

尊厳・ジェンダー:子どもの居場所(7)は良好だが、未成年の自殺率(30)は高い。審議会等の女性委員の割合(30)は低く、女性の自治会長はゼロで、改善が課題である。

地域の連帯・国際性:公民館数(7)は多く、アンケート調査では、外国人の増加を歓迎する割合(1)が最も高い。

総合計画とSDGsの関係:「人と地域が輝く田園交流都市かくだ、きらりと光る多様な個性」がまちづくりの理念。次期総合計画の策定方針は、SDGsの「誰も取り残さない社会」の実現、「経済社会環境の相互作用による成長」の目標を反映させるとしている。DV根絶、子どもの虐待の早期発見、いじめ防止を重視。不登校生生徒数を減らす目標を数値化(1.43%→1.0%)しているのは評価。

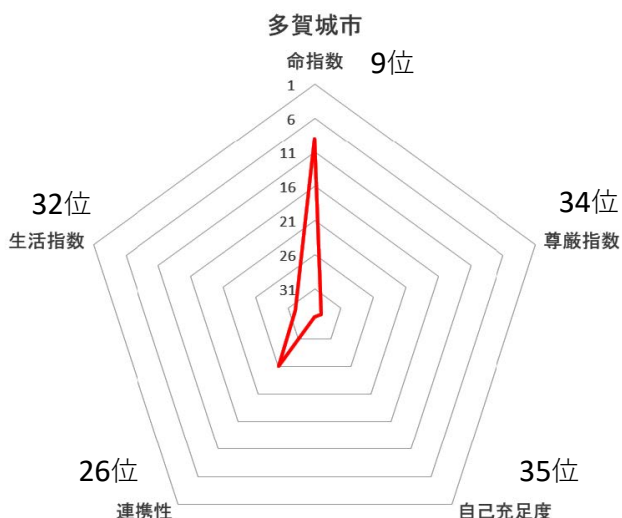
優先課題:健康寿命(特に男性)、人口減(移住定住)、産業振興、雇用の機会、子育て支援、子どもの遊び場、地域医療、審議会の女性委員、女性の自治会長

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

8 多賀城市 総合指数:第26位

人口6万2,267人(7位)
推計人口5万2,741人(2035年)
面積19.7km²

命指数9位は高いが、生活指数32位、
尊厳指数34位が極めて低い。主観的な
自己充足度35位が最も低く、連携性
26位も低い。



生命・健康:平均寿命(男8位、女32位)、健康寿命(男13位、女25位)ともに女性が低い。出生率が高く(3)、転入率(7)も高い。子どもの割合(7)、生産年齢人口(3)が高く、高齢化率(6)が低く、若い世代が多い。ひとり親世帯の子どもの数(6)も少ない。病院・診療所の数(30)は人口当たりでは少ないが、産婦人科医(6)は3か所。運動習慣(6)、一日の歩数(2)ともに良好で健康意識が高い。

経済産業・雇用:正規雇用者の割合(7)が高い一方、女性就業者の正規雇用率(32)は低いことが注目される。労働生産性(29)は高くない。

教育:肥満傾向児童は少ない(小6(6)、中2(6))。待機児童数(31)の早期解消が課題。教員当たり児童生徒数が多く(小学生(34)、中学生(32))、一人当たり教育費(31)が低い。

福祉:児童養護施設(5)、要介護者の割合(6)、高齢者用施設数(1)は良好。他方で、生活保護受給率(32)が高く、介護サービス従事者数(32)、生活保護ケースワーカーの数が少ない。

生活環境:汚水処理率(3)が高い。住宅の高齢者設備(29)、住宅延べ面積(34)、持ち家比率(33)、自動車保有台数(33)、は下位にとどまる。一人当たりCO2排出量(29)の削減が課題。消防団員の充足率(33)、刑法犯罪認知件数(33)が課題。飲酒運転違反件数(1)は最も低い。

尊厳・ジェンダー:女性議員の割合(5)は高いが、女性の自治会長は皆無である。子どもの居場所(32)が少ない。

地域の連帯・国際性:地縁団体の数(34)、NPO団体数(35)ともに少ない。未成年の外国人(4)、留学生数(2)が多いが、アンケート調査では、外国人の増加を歓迎する割合(30)が低い。

総合計画とSDGsの関係;「未来を育む歴史都市多賀城—支えあい・まなびあい・育ちあい—あなたの笑顔が素敵な多賀城」がまちづくりの理念。次期総合計画の策定方針は、SDGsの「誰も取り残さない社会」の実現、「経済社会環境の相互作用による成長」などの目標を反映させている。

優先課題:緩やかな人口減・高齢社会、交流人口・移住定住の増加、子育て支援、産業振興、生活保護受給率、子どもの居場所、女性の自治会長、消防団員の充足率

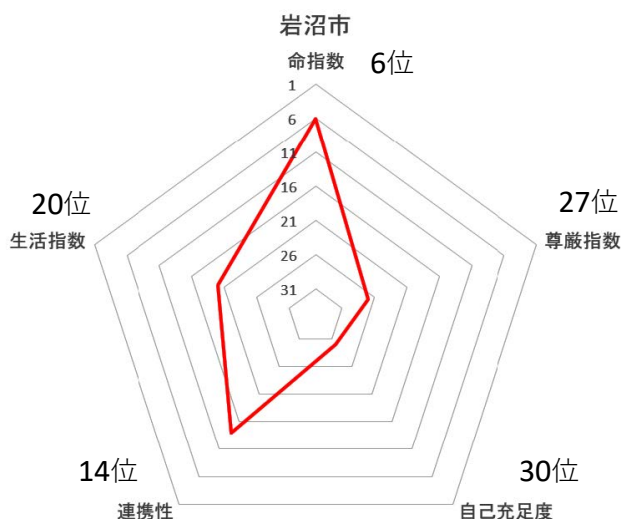
宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

9 岩沼市

総合指数:第10位

人口4万3,915人(11位)
推計人口4万1,369人(2035年)
面積 60.5km²

命指数6位は高いが、生活指数20位、
尊厳指数27位は中位。主観的な自己
充足度30位が低い、連携性14位は
中位。



生命・健康:平均寿命(男8位、女32位)、健康寿命(男13位、女25位)ともに女性が低い。子どもの割合(6)、生産年齢人口(7)が高く、高齢化率(7)が低く、若い世代が多い。交通条件、医療体制が充実し、子どもの医療費助成(1)が良好で、運動習慣(6)、一日の歩数(2)が多く、喫煙率(4)が低く、健康意識が高い。交通事故死傷者数(30)は多い。

経済産業・雇用:一人当たり所得(5)が高く、国民年金保険料の全額免除(5)が低く、貧困率が低いと推定される。正規雇用者の割合(6)、障害者雇用率(2)も高く、雇用環境は良好。財政力指数(5)も高い。

教育:小中学校のICT教育の環境(5)が良好で、生涯教育の機会(5)も多い。肥満傾向児童(小6)(7)も少ない。教員当たり小学校児童数(33)が多く、一人当たり教育費(32)が低いことが課題。

福祉:生活保護のケースワーカーの数の拡充が課題。児童養護施設が課題。

生活環境:汚水処理率(6)は良好。住宅延べ面積(33)、持ち家比率(31)は低位。

尊厳・ジェンダー:審議会等の女性委員の割合(4)は高い。未成年の自殺率(32)、女性の自殺率(30)ともに高いことが懸念される。選挙投票率(30)が低い。

地域の連帯・公の信頼・国際性:地縁団体の数(5)は多い。アンケート調査で、東日本大震災後の地域の絆(30)が強まったとの回答は少ない。

総合計画とSDGsの関係:「I(愛)があふれる「健幸」先進都市、いわぬま」がまちづくりの理念。地方創生計画では、SDGsを動力にして魅力ある地産地生のまちづくりを謳い、SDGs目標のロゴを使用。幸せ指標、健康指標、住みよさ指標を数値化しているが、健康寿命以外は客観的指標になっていない。安心・安全、幸せの追求を超えて、一人一人の尊厳につながる要素が弱い。

優先課題:復興、安心安全、健康、子育て支援、経済の活力、就学援助受給率、子どもの居場所

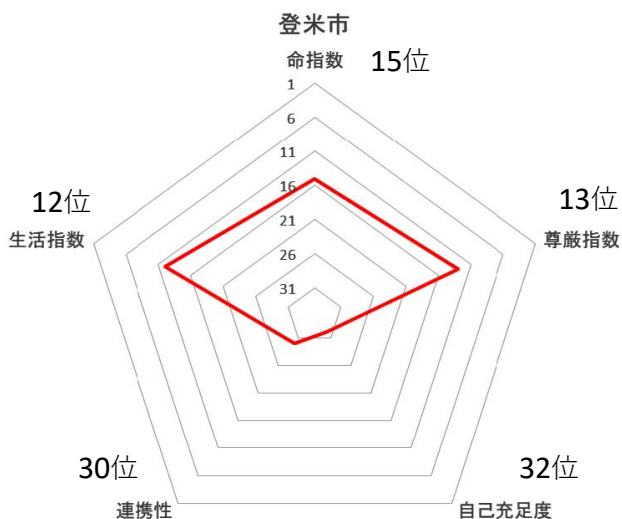
宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

10 登米市

総合指数:第11位

人口7万7,298人(5位)
推計人口6万2,595人(2035年)
面積 536.1km²

命指数15位、生活指数12位、尊厳指数13位とバランスが取れているが、主観的な自己充足度32位と連携性30位は低く、人生を悲観視する人が多い。



生命・健康:平均寿命(男23位、女20位)、健康寿命(男30位、女20位)ともにほぼ中位。一人当たり医療費(5)は低く、健康診断受診率(2)は高く、子どもの医療費助成(1)は充実している。他方で、医師の数(35)が少なく、自殺死亡率(30)が高い。運動習慣(2)も高いが、一日の歩数(30)は少ない。

経済産業・雇用:農漁業生産高(6)が高いが、労働生産性(31)は低い。所得300万円未満世帯(30)が多く、正規雇用者の割合(31)は低い。他方、完全失業率(5)が低く、女性人口の就業者割合(3)、女性就業者の正規雇用率(4)、高齢者有業率(3)が高位で、雇用環境は優れている。財政力指数は低い(28)。

教育:生涯教育の機会(1)が最も多く、小中学校のICT教育環境(6)も良好。

福祉:高齢者用施設数(4)が多いが、要介護者の割合(32)は高く、介護保険料(35)が高い。専任の生活保護ケースワーカー、児童養護施設が課題。

生活環境:住宅延べ面積(3)が大きく、刑法犯罪認知件数(7)が少ない。自動車保有台数(32)、消防団員の充足率(29)は低位である。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:男女共同参画の推進(3)を重視している。子どもの虐待相談件数(7)は少ないが、未成年の自殺率(31)は高い水準。

地域の連帯・国際性:移住定住・交流人億の増加を目指したまちの魅力の発信力が高い(5)。地縁団体の数(6)が多い。

総合計画とSDGsの関係:「市民との協働による持続的な発展—あふれる笑顔、豊かな自然、すまいまちとめ」がまちづくりの理念。SDGsの目標は、市の未来目標と同じ考えとして、施策をSDGs目標と関連付けている。持続可能な森林を目指してFSC認証取得。達成目標も改訂(例:不登校数)。差別のない人権意識の向上、男女の人権の尊重、多文化共生、DV・いじめの根絶を重視。

優先課題:健康寿命(特に男性)、人口減、少子化、都市機能の集積、医師不足(産婦人科、小児科)、未成年の自殺率、ケースワーカー、厳しい財政運営

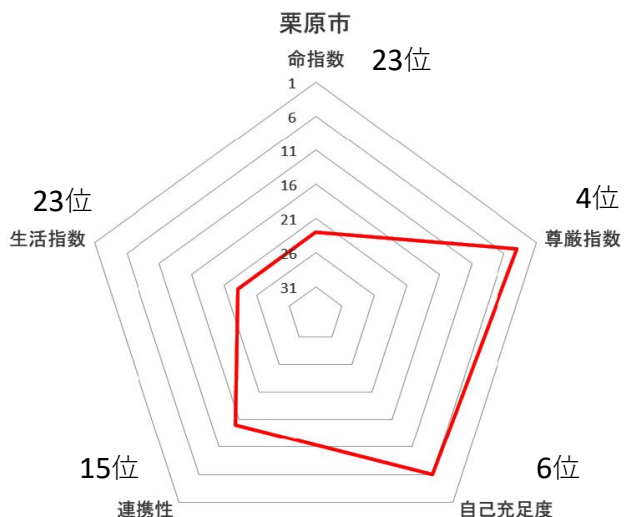
宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

11 栗原市

総合指数:第14位

人口6万5,782人(6位)
推計人口4万8,036人(2035年)
面積 805.0km²

命指数23位、生活指数23位ともに低い
が、尊厳指数4位は高い。主観的な自己
充足度6位、連携性15位で、将来の
人生を悲観視する人が多い。



生命・健康:平均寿命(男29位、女21位)、健康寿命(男11位、女23位)ともにほぼ中位。病院・診療所の数(6)が多く、子どもの医療費助成(1)が良好で、喫煙率(6)が低い。他方、医師の数(34)は少なく、一人当たり医療費(29)が高く、運動習慣(30)など健康面に課題がある。男性の未婚率(30)が高く、生産年齢人口(33)が少なく、高齢化率(32)が高く、高齢者単身世帯(30)も多く、少子高齢化、過疎化が大きな課題。

経済産業・雇用:正規雇用者の割合(30)は低い、女性就業者のなかの正規雇用率(3)は良好である。一人当たり所得(34)が極めて低く、所得300万円未満世帯(31)が多く、労働生産性(32)、財政力指数(31)が低く、所得や財政面で課題が大きい。

教育:生涯教育の機会(5)は多い。肥満傾向児童小6(32)が多い。

福祉:生活保護受給率(29)が高く、高齢化率を反映して、要介護者の割合(34)が多い。

生活環境:住宅延べ面積(1)が最も大きく、自動車保有台数(5)も多い。自然災害による住居被害(6)は少ない。日照時間(31)が短い、再生可能エネルギーの発電量(4)は多い。汚水処理率(31)が低く、防災拠点となる公共施設の耐震率(29)の改善が課題。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:選挙投票率(3)が高い。男女共同参画の推進(3)を重視し、女性管理職員の割合(7)や審議会等の女性委員の割合(1)が高く、評価されるが、女性議員はゼロにとどまる。

地域の連帯・国際性:移住定住・交流人口の増加を目指すまちの魅力の発信力が高い(1)。指定文化財(5)、公民館数(6)、地域の絆(5)、地縁団体の数(7)が多く、地域の連携が強いことを示している。未成年の外国人(7)が多い。

総合計画とSDGsの関係:「市民が創出する暮らしたい栗原一恵まれた自然環境と共生する理想的な生活空間を創設する」がまちづくりの理念。後期基本計画でSDGsの視点を反映する方針。まちひとしごと創生後期基本計画で、SDGsの目標・ターゲットを踏まえてKPIを設定する予定であるが、生活環境を実現するのが主眼で、ジェンダーの視点が弱い。成果目標の数値化は限定的(例:不登校、いじめ件数)。

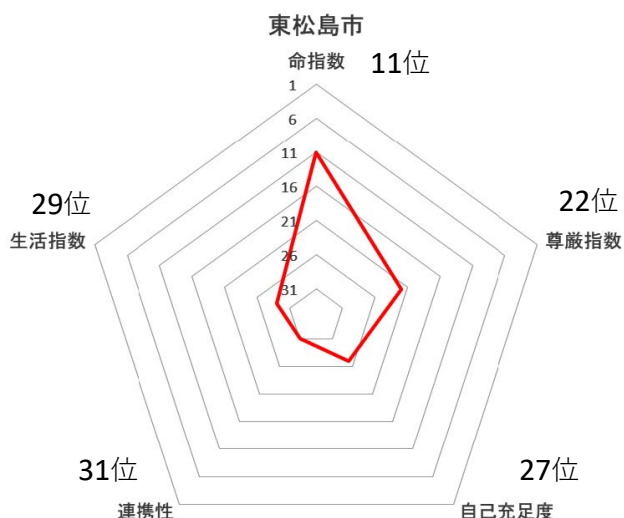
優先課題:人口減、少子高齢化、男性の未婚率、都市機能の集積、移住定住の促進、高齢化率、生活保護受給率、防災拠点となる公共施設の耐震率、女性議員

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

12 東松島市 総合指数:第23位

人口3万9,579人(12位)
推計人口3万3,841人(2035年)
面積101.3km²

命指数11位は良好であるが、生活指数29位、尊厳指数22位が低い。主観的な自己充足度27位と連携性31位は、客観的データと近似した結果である。



生命・健康:平均寿命(男24位、女21位)より健康寿命(男9位、女10位)が良好。男性未婚率(6)が低く、出生率が高い(6)。ひとり親世帯の子どもの数(28)が多い。医師の数(7)、子どもの医療費助成(1)、運動習慣(3)は良好であるが、健康診断受診率(35)が最も低い。自然災害による死者数(32)が多く、津波の被害の大きさを示している。

経済産業・雇用: 障害者雇用率(6)が高いが、女性人口の就業者割合(29)が課題である。

教育: 教員当たり中学校生徒数(29)が多く、ユネスコスクールへの参加が課題。

福祉: 介護保険料(5)が低い。専任の生活保護ケースワーカーが課題。

生活環境: 日照時間(2)が長く、自動車保有台数(3)は多いが、一人当たりCO2排出量(3)が少ない。自然災害による住居被害(34)が甚大で、住宅の高齢者設備(35)が最も少ない。飲酒運転違反件数(29)が多いのは課題。

尊厳・ジェンダー: 女性の自殺率(7)は低い、子どもの虐待相談件数(29)が多く、子どもの居場所(34)が極めて少なく、拡充が課題。女性管理職員の割合(34)の増加も大きな課題。

地域の連帯・国際性: アンケート調査では、東日本大震災後の地域の絆(1)が強まった意見が最も多いが、地縁団体の数(29)が少なく、外国人の割合(34)も少ない。

総合計画とSDGsの関係: 「住み続けられ持続・発展する東松島市—地方創生のトップランナーを目指す」がまちづくりの理念。後期基本計画は、SDGsの理念に沿ったまちづくりを謳う。2018年にSDGs未来都市に選定、スマート防災エコタウン事業などを実施し、SDGsの普及(市民、職員、市外)、啓発活動を積極的に進めており、評価される。前期計画での達成度を細緻に表示し、成果目標を数値化。人の尊厳については、ジェンダーの視点、高齢者や障害者への支援、いじめ・不登校を生まない魅力ある学校づくりなどを含んでいるが、具体的な施策は、意識啓発の推進が中心で、十分とは言えない。

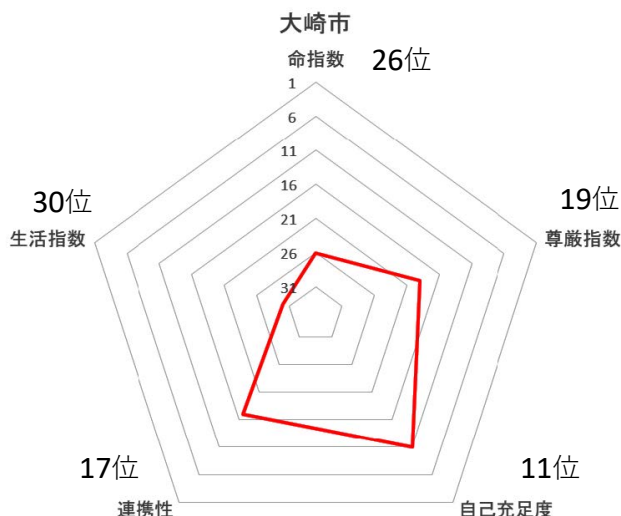
優先課題: 甚大な人的・住宅被害を受け、震災復興の促進が最優先の課題。人口減、少子高齢化、子どもの居場所、飲酒運転、住宅の高齢者設備、女性管理職員の割合

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

13 大崎市 総合指数:第32位

人口12万8,083人(3位)
推計人口11万7,643人(2035年)
面積 796.8km²

命指数26位、生活指数30位は低いが、
尊厳指数19位は中位。主観的な自己
充足度11位と連携性17位はやや高い。



生命・健康:平均寿命(男33位、女26位)は低位だが、健康寿命(男26位、女18位)は中位。医師の数はやや良好で、産婦人科医(3)も上位だが、子どもの医療費助成(32)は低く、運動習慣(31)、一日の歩数(31)が少なく健康意識に課題がある。

経済産業・雇用:経済指標はすべて概ね中位。地域再生計画認定数(2)が多く、女性人口の就業者割合(7)も高い。

教育:待機児童数(34)が多く、早急な解消が課題。就学援助受給率(29)も高い。生涯教育の機会(5)は多い。

福祉:児童養護施設(2)は3か所。児童相談件数(33)が極めて多い。生活保護受給率(34)が極めて高く、生活保護のケースワーカーの拡充が課題。要介護者の割合(29)も高い。

生活環境:再生可能エネルギーの発電量(3)が多い。消防団員の充足率(7)は高いが、防災拠点となる公共施設の耐震率(32)の改善が大きな課題。住宅の高齢者設備(31)、自動車保有台数(35)が少なく、汚水処理率(30)も低い。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:男女共同参画の推進(1)の取り組みは充実している。子どもの虐待相談件数(35)が最も多い。選挙投票率(34)が低い。

地域の連帯・国際性:技能実習生や外国人がやや少ない。アンケート調査では、東日本大震災後の地域の絆が強まったとの回答は少ない。

総合計画とSDGsの関係:「宝の都・大崎ーずっとおおさき、いつかはおおさき」がまちづくりの理念。持続可能な水田農業として大崎耕土が世界農業遺産に指定。郷土愛を育む地元学の推進、子どもファンドは重要。他方、人権の尊重、不登校・いじめ、児童虐待対策、障害者の自立支援、高齢者に対する包括的支援体制などの施策をSDGsの理念と関連付ける問題意識は弱い。

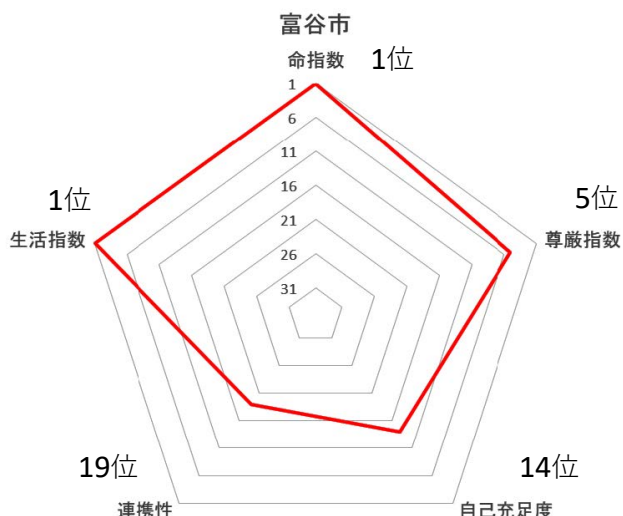
優先課題:人口減でも持続可能な地域づくり、交流人口の増加、移住定住の促進、生活保護受給率、待機児童、児童相談件数、子どもの虐待相談件数、就学援助率、防災拠点となる公共施設の耐震率

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

14 富谷市 総合指数:第1位

人口5万2,432人(5位)
推計人口5万8,051人(2035年)
面積 49.2km²

生活指数1位、命指数1位が最も高く、
尊厳指数5位も高い。主観的な自己充
足度14位と連携性19位には客観的
データと乖離がある。



生命・健康:平均寿命(男4位、女1位)、健康寿命(男2位、女15位)ともに極めて良好。子どもの割合(1)、生産年齢人口(4)、男性未婚率(1)、女性未婚率(4)、高齢化率(1)、高齢者単身世帯(1)、ひとり親世帯の子どもの数(1)がすべて極めて低く、子育て世代が多い。自殺死亡率(4)、自然災害による死者数(5)も少なく、病院・診療所数(1)、医師数(2)、産婦人科医(4)、一人当たり医療費(7)すべて良好な医療条件にある。健康診断受診率(4)、喫煙率(5)、運動習慣(6)、一日の歩数(2)が高位で、市民の健康意識が高い。

経済産業・雇用:所得300万円未満世帯(1)、国民年金保険料の全額免除(1)が最も少ない。女性人口の就業者割合(6)、高齢者有業率(7)が高く、地域再生計画認定数(4)、財政力指数(7)ともに良好。世帯当たり購買額(35)、労働生産性(34)、正規雇用者の割合(34)の改善が課題。

教育:待機児童数、就学援助受給率ともにゼロで、肥満傾向児童も少ない(小6(2)、中2(1))。全小中学校をユネスコスクールに指定しているが、環境教育を超え、子どもの権利、人の尊厳に関する取り組みが期待される。教員当たり児童・生徒数が多く(小学校(35))、生涯教育の機会(31)が少ない。

福祉:生活保護受給率(1)、要介護者の割合(3)が極めて低い。

生活環境:日照時間(29)は短い。一人当たりCO2排出量(2)、污水处理率(5)は良好で、自然災害による住居被害(7)が少ない。自動車保有台数(29)、コンビニ数(33)は少ない。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:男女共同参画の推進(7)を重視し、女性の自殺率(5)が低く、女性議員の割合(5)、審議会等の女性委員の割合(2)、自治会長の女性の割合(4)はすべて多い。子どもの居場所(31)の拡充が課題。

地域の連帯・国際性:指定文化財(31)、地縁団体の数(32)、NPO団体数(32)など社会関係資本の充実が課題。外国人の割合(32)、技能実習生(29)が少ない。

総合計画とSDGsの関係;「住みたくなるまち日本一」がまちづくりの理念。ユニセフの「子どもにやさしいまち」として、先駆的活動。CO2を排出しない未来都市 Tomiyaを目指して、低炭素水素技術実証事業を実施し、SDGsへの関心が高い。多様な立場や考えを尊重する、人権尊重、共生を重視、包括的な子育て支援センターを通じ、子育てしやすい環境が全国でもトップレベル。

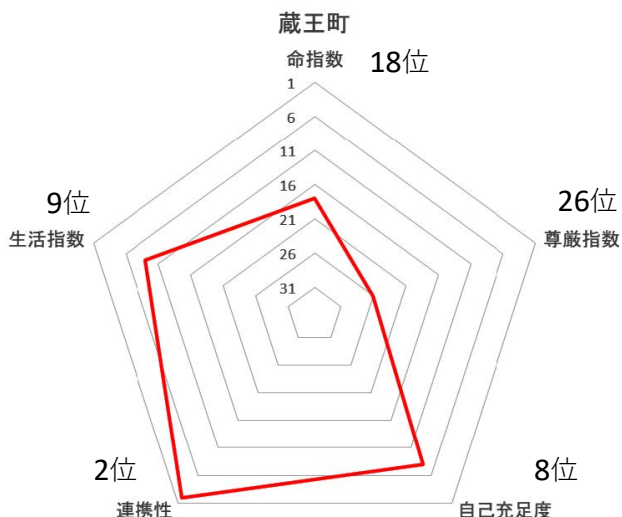
優先課題:労働生産性、正規雇用者の割合、子どもの居場所、生涯教育の機会
地縁団体の数、NPO団体数

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

15 蔵王町 総合指数:第17位

人口1万1,707人(28位)
推計人口9,432人(2035年)
面積152.8km²

生活指数9位は高いが、命指数18位は中位、尊厳指数26位は低い。主観的な自己充足度8位と連携性2位と良好で、人生を楽観視する人が多い。



生命・健康:平均寿命(男18位、女15位)は中位だが、男性の健康寿命(男31位、女4位)に課題。一人当たり医療費(3)は低く、子どもの医療費助成(1)が良好。生産年齢人口(29)が少なく、自殺死亡率(29)が高い。喫煙率(30)を下げるのが課題。

経済産業・雇用:農漁業生産高(5)が多い。完全失業率(3)が低く、女性就業者の正規雇用率(2)が高い一方で、女性人口の就業者割合(35)、障害者雇用率(34)、高齢者有業率(35)が最も低く、雇用状況の改善が課題である。世帯当たり購買額(29)が低い。

教育:待機児童数はゼロで、教員当たり小中高の児童生徒数が極めて少ない(小学校(5))。就学援助受給率(31)が高い。ユネスコスクール指定はない。

福祉:介護保険料(2)が低く、要介護者の割合(5)、介護サービス従事者数(4)が多く、高齢者にとって良好な環境にあるが、特老施設入所希望者の割合(29)は高い。

生活環境:持ち家比率(4)が高く、コンビニ数(5)も多い。消防団員の充足率は100%。一人当たりCO2排出量(32)が多く、汚水処理率(29)が低い。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:選挙投票率(6)が高い。子どもの居場所(1)が最も多い。他方、女性の自殺率(35)が最も高く、女性議員・女性自治会長はゼロ、審議会等の女性委員の割合(35)が最下位、女性管理職員の割合(32)が低位であり、女性を巡る環境の改善が大きな課題である。

地域の連帯・国際性:公民館数(3)は多く、アンケート調査では、外国人の増加を歓迎する割合(2)が極めて高い。

総合計画とSDGsの関係:「ずっと愛にあふれるオンリーワンなまち・蔵王」がまちづくりの理念。「自然を愛する心、人を愛する心、郷土を愛する心で、魅力あるまちづくり」を目指している。SDGs達成の観点を資源循環型地域社会づくりに活用する方針。子育て環境の充実、高齢者の社会参加、地域包括ケア、バリアフリーの推進、などを重視する姿勢であるが、到達すべき目標の具体性が欠ける。

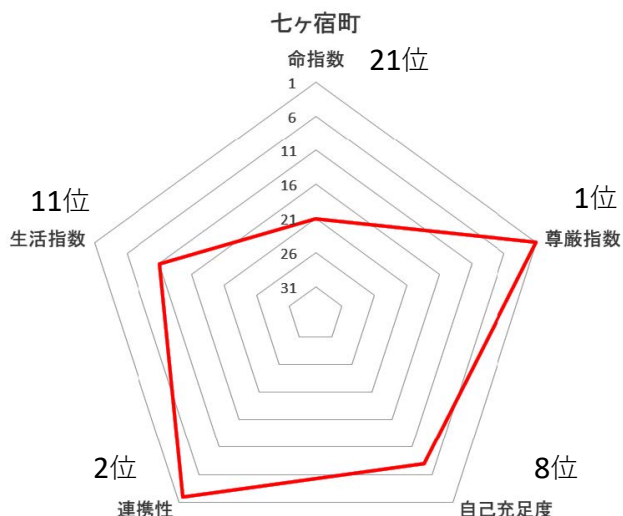
優先課題:健康寿命(特に男性)、人口減少率、移住定住の促進、高齢化率、就学援助受給率、女性の自殺率、女性の議員・審議会委員・管理職員・自治会長

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

16 七ヶ宿町 総合指数:第6位

人口1,319人(35位)
推計人口822人(2035年)
面積 263.1km²

命指数21位は低いが、生活指数11位で、尊厳指数1位が最も高い。主観的な自己充足度8位と連携性2位が良好である。



生命・健康:平均寿命(男13位、女10位)は中位だが、男性の健康寿命(男35位、女1位)に課題。男性未婚率(34)が極めて高い。健康診断受診率(1)、子どもの医療費助成(1)が最も高く、12歳時喪失歯数(1)、喫煙率(1)が最も少なく、健康意識が高いが、一人当たり医療費(32)は高い。子どもの割合(35)、生産年齢人口(35)が最も少なく、高齢化率(35)、高齢者単身世帯(35)が最も多く、人口減、高齢化が加速。自然災害による死者数(1)は少ない。

経済産業・雇用:農漁業生産高(4)、正規雇用者の割合(5)は高いが、一人当たり所得(35)が最も低く、国民年金保険料の全額免除(35)が最も多く、所得面で課題がある。高齢者有業率(32)も低く、財政力(32)が弱い。

教育:待機児童、就学援助受給者はゼロ、教員当たり小中高児童生徒数はいずれも最も少なく、一人当たり教育費(1)が最も高い。小中学校のICT教育の環境(1)も良好。肥満傾向児童が極めて多いのが課題(小6(29)、中2(35))。

福祉:児童相談件数(1)が最も少ない。介護保険料(4)が低く、要介護者の割合(35)が最も高いが、高齢者用施設数(7)も多い。

生活環境:日照時間(34)が短い。コンビニ数(1)、自然災害による住居被害(1)が人口割で最も多い。飲酒運転違反件数(35)、刑法犯罪認知件数(35)が、人口割で最も多いので、取り組みの強化が課題。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:選挙投票率(1)が最も高い。子どもの虐待相談件数(1)は、最も少ないが、子どもの居場所(35)が極めて少ない。女性の自殺率(1)は低いが、女性議員・女性の自治会長がゼロで、審議会等の女性委員(34)、女性管理職員(30)も少なく、男女共同参画の課題(31)が大きい。

地域の連帯・国際性:移住定住・交流人口の増加を目指すまちの魅力の発信力が高い(3)、公民館数(1)、地縁団体の数(3)、NPO団体数(2)など社会関係資本が高い。人口に対する外国人(2)、未成年の外国人(1)、技能実習生の割合(2)が高く、アンケート調査で、外国人の増加を歓迎する割合(2)が極めて高く、国際性が強い。

総合計画とSDGsの関係:「小さくても持続可能なまち:豊かさや幸せを実感できる住み心地100点のまち」がまちづくりの理念。SDGsの目標を取り入れ、計画の内容を関連するSDGsの目標に当てはめているが、目標の具体性が欠ける。「誰ひとり取り残さない」を理念としているが、尊厳を重視する視点は弱い。

優先課題:人口減、高齢化、要介護率、定住移住、健康寿命、生活保護受給率、就学援助率、肥満傾向児童、子どもの居場所、男女共同参画、飲酒運転

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

17 大河原町 総合指数:第12位

人口2万3553名(20位)
推計人口2万2079名(2035年)
面積 25.0km²

命指数8位、生活指数10位は高いが、
尊厳指数31位が極めて低い。主観的な
自己充足度19位は中位であるが、連携
性5位は高い。



生命・健康:平均寿命(男7位、女3位)、健康寿命(男10位、女2位)ともに良好。若年層(15-34歳)の流入率が高い。一人当たり医療費(6)は低く、子どもの医療費助成(1)は良好。女性未婚率(30)が高く、産婦人科診療所が課題。

経済産業・雇用:世帯当たり購買額(6)は多いが、完全失業率(32)が高い。

教育:ユネスコスクール(2)が多く、小中学校のICT教育の環境(4)も良好。待機児童数(30)が多く、就学援助受給率(30)が高く、一人当たり教育費(35)が少ないことが課題である。

福祉:児童相談件数(7)は少ない。介護面では、介護保険料(1)、要介護者の割合(1)、特老施設入所希望者の割合(5)がいずれも低く、良好な状態。

生活環境:一人当たりCO2排出量(7)が少なく、コンビニ数(3)が多い。住宅延べ面積(30)、持ち家比率(30)は低い。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:子どもの虐待相談件数(6)は少ない。男女共同参画の推進(27)に課題があり、女性の自治会長はいない。

地域の連帯・国際性:指定文化財(29)、地縁団体数(28)が少なく、アンケート調査では、東日本大震災後の地域の絆が強まったとの回答が少ない。

総合計画とSDGsの関係:「ひと、まち、桜が咲きほこる先進のまち—おおらかに、たくましく未来へ続くおおがわら」がまちづくりの理念。ひとしごと総合戦略では、SDGsを原動力とした地方創生として、持続可能なまちづくりに向けて、誰もが居場所と役割をもつ地域社会、持続可能なまちをめざす、として、現状・課題、対応策、目標値を整理しているが、数値目標は限定的。社会的弱者への対処、社会的包摂の推進に言及があるが、人権、尊厳の視点は強くない。

優先課題:人口減少の抑制、移住定住の促進、待機児童、就学援助受給率、一人当たり教育費、子どもの居場所、女性共同参画、女性の自治会長

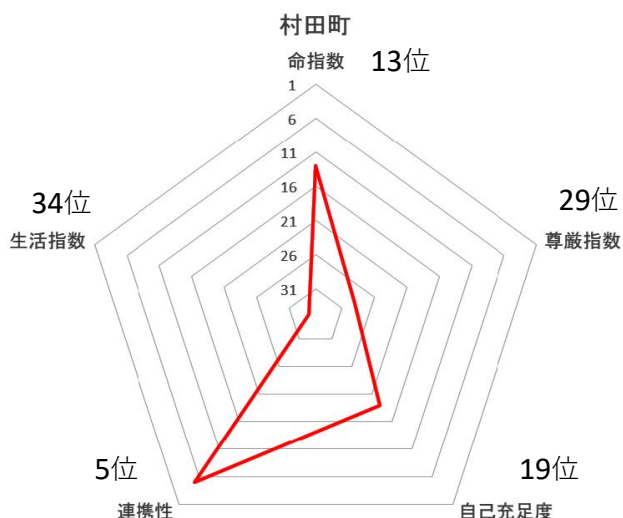
宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

18 村田町

総合指数:第34位

人口1万587人(29位)
推計人口8,857人(2035年)
面積 78.4km²

命指数13位に比べて、生活指数34位、
尊厳指数29位が低い。主観的な自己
充足度19位は中位であるが、連携性5
位は強い。



生命・健康:平均寿命(男16位、女9位)、健康寿命(男5位、女17位)ともに概ね中位。転入率(2)が高いが、出生率が高くなく、人口減の傾向。ひとり親世帯の子どもの数(7)が少なく、子どもの医療費助成(1)が良好。自殺死亡率(1)は最も低い。交通事故死傷者数(33)が多い。産婦人科診療所が課題。

経済産業・雇用:正規雇用者の割合(3)は高いが、完全失業率(34)、障害者雇用率(32)、高齢者有業率(34)のいずれも高く、雇用面で大きな課題がある。

教育:就学援助受給率(5)が低く、教員当たり高校生生徒数(7)も少ないが、一人当たり教育費(33)は低い。ユネスコスクール指定校がなく、生涯教育の機会(31)も少ない。

福祉:児童相談件数(6)が少ない。高齢者用施設数(30)も少ない。

生活環境:コンビニ数(7)は多い。再生可能エネルギーの発電量(34)が少なく、防災拠点となる公共施設の耐震率(35)が最も低いので、早急な改善が課題である。飲酒運転違反件数(33)も多い。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:生徒数に比して子どもの居場所(2)は多い。女性の自殺率(3)は低い。女性議員、女性の自治会長がゼロで、女性管理職員の割合(30)も低く、ジェンダー面で課題が大きい。

地域の連帯・国際性:公民館数(2)、NPO団体数(7)は多い。外国人の割合(30)、技能実習生(30)ともに低く国際性が弱い。

総合計画とSDGsの関係;「安心して豊かにくらすまち むらた:安心、豊かさ、暮らし」がまちづくりの基本理念。第5次計画中間案では住民一人一人がSDGsの達成に向けて取り組むことが誰一人取り残さない持続可能な村田を作り出すことに繋がっていると、SDGsの内容を計画の理念や施策に反映する旨強調している。しかし、安心、安全、経済活性化、財政危機からの脱却が主眼であり、人権、尊厳の視点がどれほど反映されるかは未知数。

優先課題:人口減、移住定住の促進、生涯教育の機会、女性議員、女性の自治会長、女性の管理職員、防災拠点となる公共施設の耐震率、飲酒運転

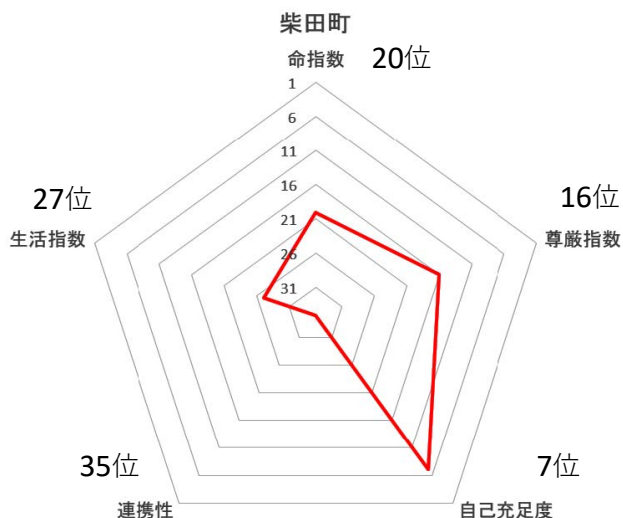
宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

19 柴田町

総合指数:第21位

人口3万7,558人(13位)
推計人口3万5,201人(2035年)
面積 54.0km²

命指数20位、生活指数27位、尊厳指数16位とほぼ中位。主観的な自己充足度7位は高いが、連携性35位は最も弱い。将来の人生を楽観視する人が多い。



生命・健康:平均寿命(男9位、女27位)、健康寿命(男20位、女27位)ともに女性が低位。国民健康保険一人当たり納付額(5)は少なく、障害者雇用率(3)、高齢者有業率(4)ともに良好。子どもや生産年齢人口の割合は低くない。男性の未婚率(25.8%)がやや高い(28)。

経済産業・雇用:女性の就業者割合(2)は高いが、女性就業者の正規雇用率(31)は低い。正規雇用の割合(33)も低い。農漁業生産高(30)は高くない。

教育:待機児童数(32)が多く、就学援助受給率(33)も高い。肥満傾向児童は低く(中2(4))、生涯教育の機会(5)も多い。ユネスコスクール指定校はない。

福祉:介護保険料(6)が低く、要介護者の割合(4)が少なく、特老施設入所希望者の割合(1)が最も低いのは、高齢者にとって有利であるが、高齢者用施設数(35)や介護サービス従事者数(35)が最も少なく、介護の課題が大きい。

生活環境:住宅の高齢者設備率は低くないが、住宅延べ面積(31)、持ち家比率(28)は低い。コンビニ数(32)が少ない。消防団員の充足率(30)、防災拠点となる公共施設の耐震率(33)がともに低いのは防災対策からも大きな課題。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:女性議員の割合(1)が最も高く、女性管理職員の割合(6)も高いが、女性自治会長はいない。

地域の連帯・国際性:地縁団体の数(31)、NPO団体数(31)ともに少なく、交流人口・移住定住の魅力のアピール度に課題(28)。未成年の外国人(29)、技能実習生(32)ともに人口比で少ない。

総合計画とSDGsの関係:「笑顔があふれ誇りと愛着を育む花のまち」がまちづくりの理念。まちひとしごと創生総合戦略では、SDGsの視点を取り入れ、4戦略と関連するSDGs目標を記入しているが、数値目標は限定的。また、SDGs目標16は含まれておらず、SDGsを産業や人口減に対処する地方再生の観点でしかとらえていないのは、他の市町村にもみられる傾向である。

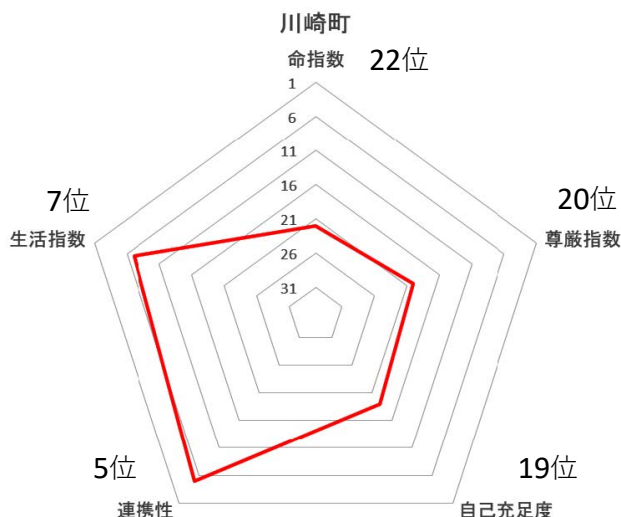
優先課題:健康寿命(特に女性)、正規雇用の割合、待機児童数、就学援助受給率、高齢者用施設数、介護サービス従事者数、消防団員の充足率、防災拠点となる公共施設の耐震率、女性の自治会長、コンパクトシティ

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

20 川崎町 総合指数:第16位

人口8,577人(30位)
推計人口6,497人(2035年)
面積 270.8km²

生活指数7位は高いが、命指数22位、
尊厳指数20位がやや低い。主観的な自己
充足度19位に比べて、連携性5位は
強い。



生命・健康:平均寿命(男25位、女5位)、健康寿命(男32位、女12位)ともに男性が低位。女性未婚率(7)が低い、出生率が低く(32)、子どもの割合(30)が低い。転出率(32)も極めて高く、人口減少率が高い(29)。子どもの医療費助成(1)が良好で、健康診断受診率(6)が高く、12歳時喪失歯数(2)が少ないが、一人当たり医療費(33)、国民健康保険一人当たり納付額(29)は高い。自殺死亡率(32)、喫煙率(35)が高く、健康面での課題である。自然災害による死者数(2)は少ない。

経済産業・雇用:一人当たり所得(31)、労働生産性(33)、財政力指数(30)がいずれも低く、経済面での課題が大きい。女性就業者の正規雇用率(1)は最も高く、障害者雇用率(7)も高い。

教育:待機児童はゼロで、教員当たり小中高児童生徒数が少なく(小学校で(4)、一人当たり教育費(7)も高い。肥満傾向児童が多く(小6(31))、小中学校のICT教育の環境(32)の改善が課題。ユネスコスクール指定校がない。

福祉:児童相談件数(3)が人口比で少ない。介護保険料(32)は高く、高齢者用施設数(31)が少ない。

生活環境:日照時間(35)は最も短く、再生可能エネルギーの発電量(31)が低い。持ち家比率(3)は高く、自然災害による住居被害(2)が少ない。刑法犯罪認知件数(5)も少ない。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:選挙投票率(4)は高い。子どもの虐待相談件数(3)が少なく、子どもの居場所(4)は多い。男女共同参画の推進(31)は遅れており、女性自治会長はいない。

地域の連帯・国際性:NPO団体数(6)は人口比で多いが、アンケート調査では、東日本大震災後の地域の絆が強まったとの回答は少ない(29)。人口比で見た外国人の割合(3)、未成年の外国人(5)、技能実習生(3)はいずれも高い。

総合計画とSDGsの関係;「自然と共生したホットなまち」がまちづくりの理念。第6次計画策定中。まちひとしごと地域再生計画で、SDGsを意識した持続可能な地域ビジネスを検討。いじめ、不登校対策、障害者、高齢者の社会参加などは含まれているが、人口減少・高齢化に対応した生活支援、雇用機会の創出、脆弱な財政基盤、医療対応など安心・安全が主眼であり、尊厳の視点は弱い。

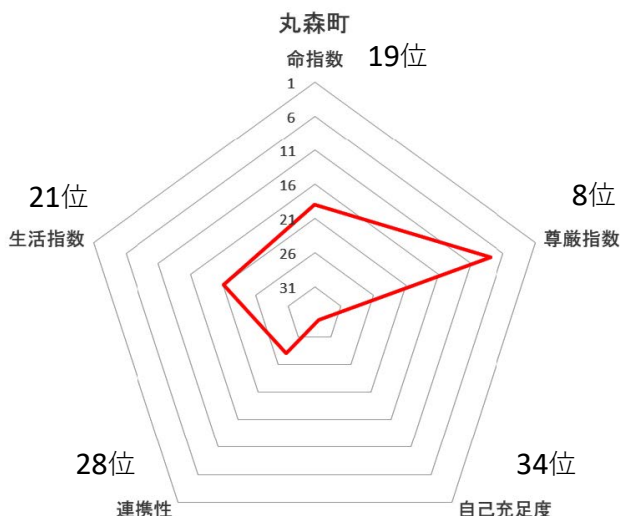
優先課題:急激な人口減少・高齢化、移住定住、喫煙率、ICT教育の環境、高齢者用施設数、男女共同参画の推進、女性の自治会長

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

21 丸森町 総合指数:第13位

人口1万2,855人(25位)
推計人口8,566人(2035年)
面積 273.3km²

生活指数21位、命指数19位は中位。
尊厳指数8位は高い。主観的な自己充足度34位と連携性28位は、客観的データに比べ低い。



生命・健康:平均寿命(男17位、女16位)、健康寿命(男14位、女7位)ともに概ね中位。子どもの割合(31)、生産年齢人口(34)が低く、男性未婚率(35)、高齢化率(34)が極めて高く、高齢者単身世帯(31)が多く、人口減少・高齢化が加速している。子どもの医療費助成(1)は良好で、国民健康保険一人当たり納付額(4)が低く、12歳時喪失歯数(4)、喫煙率(3)も少ない。交通事故死傷者数(2)が極めて少ないが、自殺死亡率(34)は人口比で、極めて高い。

経済産業・雇用:一人当たり所得(33)は低く、財政力指数(33)も下位であるが、ビッグデータによる世帯当たり購買額(1)は最も高い。

教育:待機児童数はゼロで、教員当たり小高児童生徒数は少ない(小学校で2)。小中学校のICT教育の環境(3)、ユネスコスクール(7)は多い。就学援助受給率(5)が少なく、生涯教育の機会(5)が多い。肥満傾向児童生徒が極めて多いことが課題である(小6、中2ともに(34))。

福祉:児童相談件数(2)は少ないが、要介護者の割合(33)が高く、高齢者用施設数(32)、介護サービス従事者数(29)が少なく、介護面の課題が大きい。

生活環境:持ち家比率(2)が高く、自動車保有台数(7)が多い。消防団員の充足率(5)が高く、飲酒運転違反件数(2)が少ない。コンビニ数(34)が少なく、汚水処理率(34)が低いことが課題である。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:子どもの虐待相談件数(2)は少ない。公民館数(32)が少なく、男女共同参画の推進(31)に課題を抱えており、女性の自治会長はいない。

地域の連帯・国際性:移住定住・交流人口の増加を目指すまちの魅力の発信力が高い(6)。地縁団体の数(1)、NPO団体数(5)など社会関係資本が多い。外国人の割合(6)、未成年の外国人(2)も人口比で多い。

総合計画とSDGsの関係:「人と地域が輝き 豊かで元気なまち・まるもり」、「ともに立ち上がろう 次代につなぐ新たなまち」がまちづくりの理念。復旧・復興計画では、SDGsの精神を受けて、誰一人取り残さない持続可能なまちの創造を基本理念に据えている。高齢者の社会参加、障害者の自立支援、児童虐待対策などは含まれているが、差別、男女共同参画など尊厳の視点は弱い。

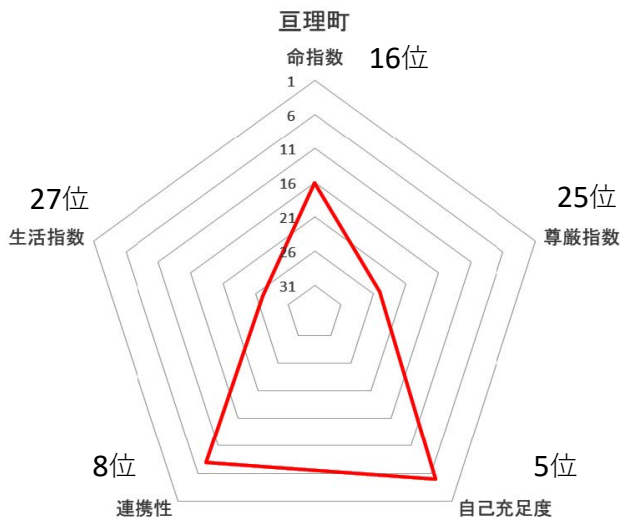
優先課題: 甚大な台風被害からの復興。急激な人口減、少子高齢化、若者定住、自殺死亡率、肥満傾向児童、高齢者用施設数、汚水処理率、男女共同参画の推進

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

22 亶理町 総合指数:第24位

人口3万3,441人(15位)
推計人口2万6,834人(2035年)
面積 73.6km²

命指数16位に比べ、生活指数27位、
尊厳指数25位が低い。主観的な自己
充足度5位と連携性8位は極めて高く、
人生を楽観視する人が多い。



生命・健康:平均寿命(男14位、女22位)は中位だが、女性の健康寿命(男18位、女31位)に課題。出生率が低く(29)、転出率(34)が高いが、子どもの人口割合は低くなく、高齢化率も高くない。病院や医師数も良好であるが、産婦人科診療所が課題。運動習慣(6)、一日の歩数(2)ともに良好で健康意識が高い。

経済産業・雇用:国民年金保険料の全額免除(7)は少ないが、完全失業率(33)が極めて高く、正規雇用者の割合(29)、女性人口の就業者割合(30)が低く、雇用面での課題が大きい。

教育:概ね良好であるが、小中学校のICT教育の環境(34)の早急な改善が課題であり、ユネスコスクール指定校はない。

福祉:生活保護受給率は高くないが、専任ケースワーカーが課題である。

生活環境:住宅の高齢者設備(2)が極めて高く、再生可能エネルギーの発電量(7)も多い。自然災害による住居被害は多い(28)。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:選挙投票率(33)は極めて低い。未成年の自殺率(35)が最も高い。審議会等の女性委員の割合(33)が極めて少ない。

地域の連帯・国際性:移住定住・人の交流推進を目指すうえでまちの魅力の発信力が高くない(35)。外国人の割合(29)は少ないが、アンケート調査では、外国人の増加を歓迎する割合(6)が高い。

総合計画とSDGsの関係:「山と海、里と海と人をつなぐ時代(時の流れ)でつなぐ」がまちづくりの理念。後期基本計画で、SDGsの理念に沿ったまちづくりを推進するとしているが、人口流入の増加、産業振興、子育て支援が重点で、既存の施策を新たな発想で見直す視点が強くない。高齢者、障害者などひとにやさしいまち、人権教育の推進、子どもの人権を保障するため子どもの未来づくりのための協議会、仕事と家庭の両立が可能なまちづくり、などは評価される。

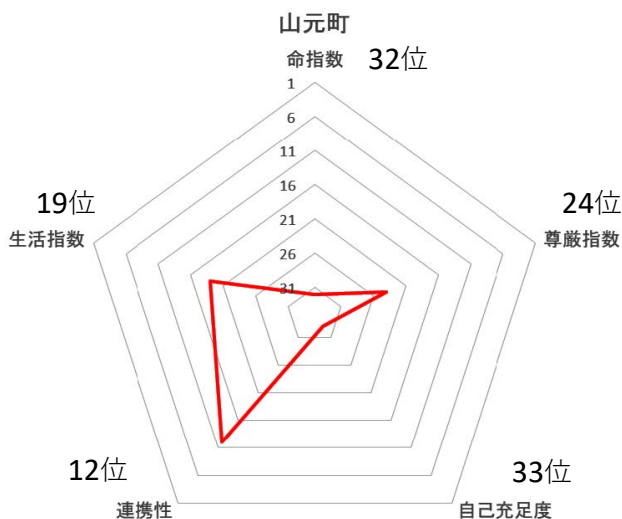
優先課題:大震災による甚大な被害を受け、災害復興、持続可能なまちの基盤づくりが最重要課題、女性の健康寿命、雇用機会の創出、小中学校のICT教育の環境、ユネスコスクール、未成年の自殺率、審議会等の女性委員の割合

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

23 山元町 総合指数:第33位

人口1万2,080人(27位)、
推計人口8,854人(2035年)、
面積 64.6km²

命指数32位が極めて低いが、生活指数19位、尊厳指数24位はやや上回る。主観的な自己充足度33位で人生を悲観視する人が多い。連携性12位は弱くない。



生命・健康:平均寿命(男5位、女28位)、健康寿命(男19位、女28位)ともに女性に課題。未婚率が極めて高く(男性(32)、女性(35))、若年層(15-34歳)の特に女性の流出率が極めて高い(男性28%、女性45%)。子どもの割合(33)、生産年齢人口(32)が少なく、ひとり親世帯の子どもの数(32)が多い。高齢化率(33)が極めて高く、高齢者単身世帯(33)が多い。自殺死亡率(31)が高く、自然災害による死者数(33)、交通事故死傷者数(31)も極めて多い。子どもの医療費助成(1)、運動習慣(6)、一日の歩数(2)は良好であるが、一人当たり医療費(35)は最も高く、12歳時喪失歯数(33)が多い。

経済産業・雇用:一人当たり所得は低い(27)が、ビッグデータによる世帯当たり購買額(4)は高く、労働生産性(5)が高い。雇用面では、完全失業率(33)、障害者雇用率(35)など課題が大きい。

教育:教員当たり小中学校児童生徒数は少なく(小学校(6))、一人当たり教育費(8)も多い。ユネスコスクール指定校はない。

福祉:児童相談件数(4)は少ないが、介護面では、要介護者の割合、特老施設入所希望者、介護サービス従事者などで課題がある。

生活環境:日照時間(5)は長い。自然災害によって住居も甚大な被害を受けた(32)。住宅の高齢者設備(2)は多く、消防団員の充足率(6)が高い。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:子どもの虐待相談件数(5)は少ない。女性議員の割合(2)は高いが、女性の自殺率(35)が最も高く、男女共同参画の推進(27)も課題がある。

地域の連帯・国際性:NPO団体数(3)が多い。未成年の外国人(30)、技能実習生(34)は人口比で少ない。

総合計画とSDGsの関係;「キラリやまもと!みんなでつくる笑顔あふれるまちー小さくともキラリと光る個性あふれるまちの創造」が理念。SDGsの持続可能な社会への取り組みを総合的に進めることが求められるとしているが、SDGsの目標と関連付けておらず、数値目標の設定項目も限られる。いじめ虐待の防止、人権教育・啓発などに重点的な位置づけはされていない。

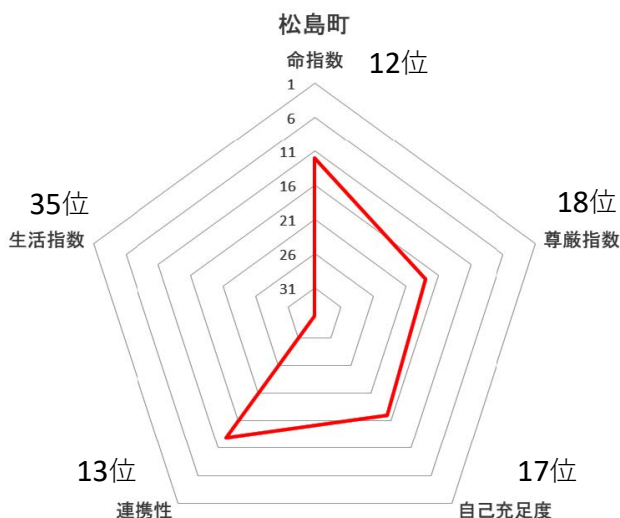
優先課題:震災復興計画の完了、人口減少、高齢化、若い世代の移住定住の促進、未婚率、交通事故死傷者数、医療費、障害者雇用、女性の自殺率、男女共同参画の推進

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

24 松島町 総合指数:第26位

人口1万3,646人(24位)
推計人口1万606人(2035年)
面積 53.6km²

命指数12位、尊厳指数18位は良好であるが、生活指数35位が最も低い。主観的な自己充足度17位と連携性13位は、客観的データに比べ高い。



生命・健康:平均寿命(男15位、女6位)、健康寿命(男4位、女3位)ともに概ね良好。未婚率が高く(男性(33)、女性(29)),出生率が低い(33),子どもの割合(32),生産年齢人口(30)は高い。転出率(30)が高い。高齢化率(30),高齢者単身世帯(29)が高く、課題が多い。病院・診療所の数(31),医師の数(29)は少なく、一人当たり医療費(30)は高い。子どもの医療費助成(1),12歳時喪失歯数(7)は良好。運動習慣(6)、一日の歩数(2)が多く、健康意識が高い。自殺死亡率(5)は低い、交通事故死傷者数(29)は多い。

経済産業・雇用:所得300万円未満世帯(7)は少ないが、国民年金保険料の全額免除(29)は多い。完全失業率(35)が高く、女性人口の就業者割合(31),女性就業者の正規雇用率(34),高齢者有業率(30)が低く、雇用面での課題が大きい。

教育:肥満傾向児童小6(30)は少ないが、就学援助受給率(35)が最も高く、生涯教育の機会(31)も少なく、ユネスコスクール指定校がない。

福祉:生活保護受給率(5)その他の福祉面での指標は概ね中位。

生活環境:再生可能エネルギーの発電量(32)が少なく、コンビニ数(29)も少ない。自然災害によって甚大な住居被害(29)を受けた。飲酒運転違反件数(3)は少ない。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:女性の自殺率(4)が低く、女性管理職員の割合(1)は最も高い。他方、男女共同参画の推進(31)に大きな課題があり、女性議員・女性自治会長はゼロで、審議会等の女性委員の割合(32)も極めて低い。

地域の連帯・国際性:指定文化財(1)が最も多く、アンケート調査では、東日本大震災後の地域の絆(2)が強まった回答が極めて多い。地縁団体の数(33)が少ない。技能実習生(35)は人口比で最も少ない。

総合計画とSDGsの関係;「歴史・文化の継承と創造」がまちづくりの理念。将来像は、「集い学び、働き、笑あふれる美しいまち 松島」。SDGsを考慮した誰一人取り残さない視点はあまり見られない。子どもの福祉・教育、高齢者、障害者福祉は重視しているが、子どもに対する暴力防止、ジェンダーの視点が弱い。

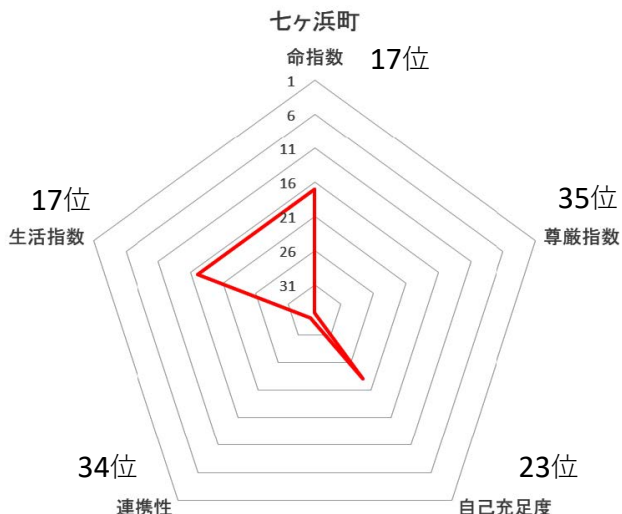
優先課題:人口減、少子高齢化、安定した雇用(特に女性、高齢者)、子育て支援、就学援助受給率、生涯教育の機会、防災、男女共同参画の推進、女性議員、女性審議会委員、観光客誘致キャンペーン

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

25 七ヶ浜町 総合指数:第29位

人口1万8,432人(22位)
推計人口1万4,426人(2035年)
面積13.2km²

命指数17位、生活指数17位は中位であるが、尊厳指数35位が最も低い。主観的な自己充足度23位は中であるが、連携性34位が弱い。



生命・健康:平均寿命(男11位、女33位)、健康寿命(男22位、女34位)とも女性に課題。出生率が極めて低い(34)。高齢者単身世帯(7)は少ない。病院・診療所の数(32)、医師の数(30)が少なく、国民健康保険納付額(30)が高い。12歳時喪失歯数(35)が最も多く、課題がある。運動習慣(6)、一日の歩数(2)は良好であるが、喫煙率(29)が高い。交通事故死傷者数(1)は最も少ない。

経済産業・雇用:労働生産性(4)が高いが、一人当たり所得(30)、世帯当たり購買額(34)がともに低い。女性就業者の正規雇用率(30)、障害者雇用率(31)がともに低く、所得・雇用が課題である。

教育:生涯教育の機会(1)は最も多いが、待機児童の解消、学校のICT環境、就学援助受給率でやや課題がある。ユネスコスクール指定校はない。

福祉:生活保護受給率(5)、要介護者の割合(7)が低い、介護サービス従事者数(34)が極めて少なく、課題がある。

生活環境:日照時間(7)は長い。一人当たりCO2排出量(1)は最も少ないが、再生可能エネルギーの発電量(33)は少ない。住宅の高齢者設備(1)、汚水処理率(1)が最も高く評価される。コンビニ数(35)は人口比で最も少ない。飲酒運転違反件数(7)、刑法犯罪認知件数(2)ともに少ない。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:選挙投票率(29)が低い。子どもの虐待相談件数(33)が極めて多く、子どもの居場所(30)が少なく、子どもを巡る環境の改善が大きな課題。女性の自殺率(29)が高く、女性管理職員の割合(33)が少なく、女性自治会長がいない。

地域の連帯・国際性:交流人口・移住定住の増加を目指すまちの魅力の発信力が高くない(34)。NPO団体数(30)が少ない。アンケート調査で、東日本大震災後地域の絆が強まった(35)との回答、外国人の増加を歓迎するとの回答の割合(35)が最も少ない。

総合計画とSDGsの関係:「自然(うみ)との調和により、人間(ひと)らしく生き、快適で住みやすいまち(まち)づくり」が理念。都市計画マスタープランで、SDGsを長期的な開発の指針として、まちづくりのビジョンとするとしているが、交流人口の増加、復興、土地利用などの関心が中心。一人一人が充実感をもてる社会を目指すとしつつも、子どもや女性の尊厳の視点は弱い。

優先課題:人口減、地域経済縮小の克服、人材確保、雇用の向上(特に女性、障害者)、喫煙率、12歳時喪失歯数、子どもの虐待相談、子どもの居場所、女性の管理職員

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

26 利府町 総合指数:第2位

人口3万6,074人(14位)
推計人口3万6,959人(2035年)
面積 44.9km²

命指数2位が極めて高く、生活指数6位に比べ、尊厳指数17位が中位。主観的な自己充足度24位と連携性25位は客観的データより低い。



生命・健康:平均寿命(男1位、女4位)、健康寿命(男3位、女11位)ともに極めて良好。未婚率が最も低く(女性(1)、男性(2))、転入率(1)が最も高く、子どもの割合(3)、生産年齢人口(2)が極めて高く、ひとり親世帯の子どもの数(3)が少なく、子育て世代が多い。高齢化率(4)、高齢者単身世帯(2)も少ない。病院・診療所の数(33)、医師の数(31)は人口比で少ない。国民健康保険一人当たり納付額(6)は低く、自殺死亡率(2)も低い。運動習慣(6)、一日の歩数(2)が多く、健康意識が高いが、交通事故死傷者数(32)は多い。

経済産業・雇用:所得300万円未満世帯(4)、国民年金保険料の全額免除(2)ともに少なく、所得面は良好。正規雇用者の割合(2)も極めて高く、財政力指数(4)も良好。ビッグデータによれば世帯当たり購買額(31)は低く、労働生産性(30)、女性就業者の正規雇用率(29)に課題がある。

教育:待機児童数はゼロで、肥満傾向児童生徒が少ない(小6(3)、中2(3))。生涯教育の機会(5)は多い。教員当たり中学校生徒数(30)が多く、ユネスコスクール指定校はない。

福祉:介護関係では、介護保険料(6)が低く、要介護者の割合(2)も少なく、特老施設入所希望者の割合(4)、介護サービス従事者数(3)ともに良好。

生活環境:一人当たりCO2排出量(4)が少ない。住宅の高齢者設備率(30)が低く、刑法犯罪認知件数(29)が多いことが課題。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:審議会等の女性委員の割合(7)、自治会長の女性の割合(2)は高い。子どもの居場所(33)の拡充が課題である。

地域の連帯・国際性:公民館数(30)、地縁団体の数(35)が極めて少なく、社会関係資本の充実が課題。アンケート調査では、東日本大震災後地域の絆が強まった(4)との回答が多い。外国人の割合(31)、未成年の外国人(31)は少ない。

総合計画とSDGsの関係:「もっと先へ、チャレンジが利府!みんなの夢がかなうまち」がまちづくりの理念。各施策で目指すSDGsの目標をわかりやすく掲載。数値目標も設定しているが、安心・安全、持続可能なまちづくりが主たる関心。子育て支援の充実、高齢者、障害者の社会参加、男女共同参画の推進、DV対策、人権教育、多文化共生の推進などは評価。町民と市政の連携を重視し、若者も含め市民の声を吸い上げている。

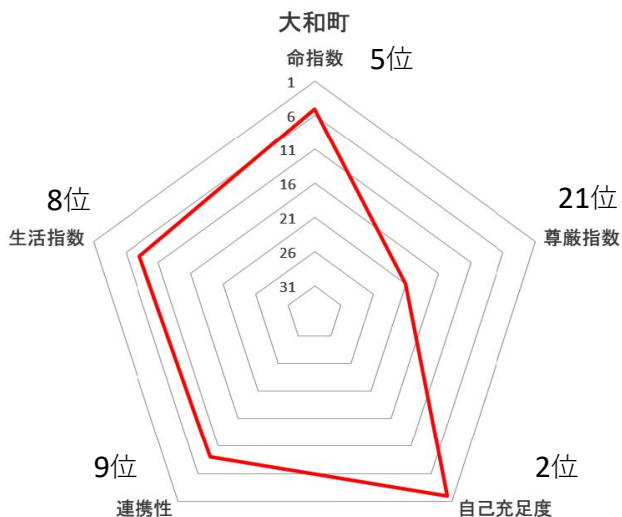
優先課題:移住定住、産業振興、交通事故死者数、女性就業者の正規雇用率、子どもの居場所、地縁団体の数

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

27 大和町 総合指数:第3位

人口2万8,285人(17位)
推計人口2万7,399人(2035年)
面積 225.5km²

命指数5位、生活指数8位は高いが、尊厳指数21位が中位。主観的な自己充足度2位と連携性9位は、客観的データより高い。



生命・健康:平均寿命(男6位、女17位)に比して健康寿命(男25位、女33位)が課題。未婚率(男性(7)、女性(9))が低く、出生率が最も高く(1)、若年層(15-34歳)の流入率が高い。子どもの割合(4)、生産年齢人口(6)が多く、ひとり親世帯の子どもの数(4)が少ない。高齢化率(2)は低く、高齢者単身世帯(5)が少なく、子育て世代が多い。病院・診療所の数(2)、医師の数(3)、一人当たり医療費(2)、健康診断受診率(7)、子どもの医療費助成(1)、一日の歩数(2)、運動習慣(6)とすべてトップクラスで、健康環境が良い。

経済産業・雇用:一人当たり所得(3)が高く、所得300万円未満世帯(5)が少ない。ビッグデータによる世帯当たり購買額(32)は高くない。労働生産性(1)が最も高く、財政力指数(2)も極めて良好。障害者雇用率(1)が最も高い。

教育:教員当たり中学校生徒数(33)が多い。肥満傾向児童が少なく(小6(5))、生涯教育の機会(5)が多い。

福祉:児童相談件数(31)が多く、介護保険料(34)が高いことが課題。介護サービス従事者数(7)は多い。

生活環境:日照時間(32)は短い。再生可能エネルギーの発電量(5)は多いが、一人当たりCO2排出量(34)は極めて多い。住宅の高齢者設備率(34)が低く、持ち家比率(32)が低いことが課題。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:選挙投票率(32)が低い。課題:未成年の自殺率(29)が高く、子どもの虐待相談件数(28)、女性の自殺率(24)がやや高い。

地域の連帯・国際性:移住定住・交流人口の増加を目指すまちの魅力の発信力が高くない(30)。公民館数(29)が少ない。外国人の割合(5)、技能実習生(5)が多く、国際性が高い。

総合計画とSDGsの関係:「みんなが誇りと愛着を持って、住み続けられるまちを目指す」が理念。次期総合計画を2年前倒しして策定する予定。雇用の安定、安心・安全、移住定住が主たる関心。

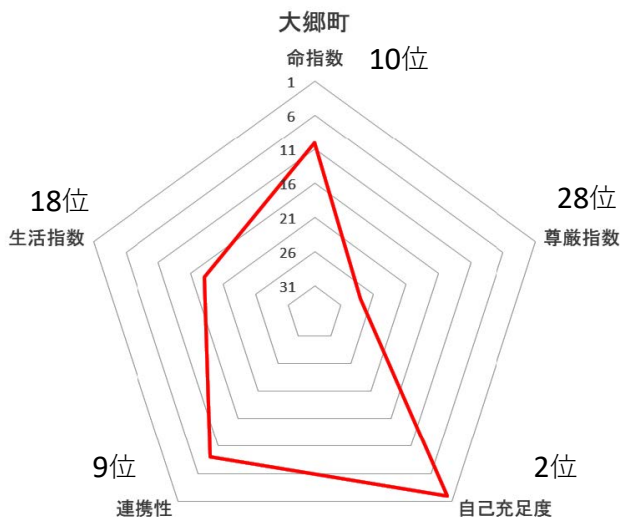
優先課題:企業進出、雇用の安定、町の活性化、子育て支援、児童相談件数、子どもの虐待相談件数、未成年の自殺率、一人当たりCO2排出量

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

28 大郷町 総合指数:第15位

人口7,910人(31位)
推計人口6,224人(2035年)
面積 82.0km²

命指数10位、生活指数18位に比べて、
尊厳指数28位が低い。主観的な自己
充足度2位と連携性9位は、客観的デー
タより高い。



生命・健康:平均寿命(男20位、女18位)、健康寿命(男17位、女29位)ともに概ね中位。未婚率は低く(女性(3)、男性(8))、生産年齢人口(27)が高い。病院・診療所の数(3)、医師の数(4)が多く、子どもの医療費助成(1)も良好。運動習慣(6)、一日の歩数(2)は多いが、12歳時喪失歯数(34)、喫煙率(34)ともに極めて高い。

経済産業・雇用:所得300万円未満世帯(2)が極めて少なく、農漁業生産高(7)が高いが、ビッグデータによる世帯当たり購買額(33)は少ない。完全失業率(7)が低く、障害者雇用率(4)が高いが、女性就業者の正規雇用率(33)が低いことが課題。

教育:就学援助受給者はゼロで、生涯教育の機会(1)が最も多い。教員当たり小学校児童数(29)は多く、肥満傾向児童(中2(33))が多い。小中学校のICT教育の環境(34)の改善も課題。

福祉:高齢者用施設数(2)、介護サービス従事者数(2)が多いが、介護保険料(30)は高く、特老施設入所希望者の割合(31)も大きい。

生活環境:持ち家比率(1)が最も多く、コンビニ数(2)が人口比で極めて多い。刑法犯罪認知件数(6)は少ない。一人当たりCO2排出量(31)の削減が課題。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:男女共同参画の推進(27)に課題があり、女性の管理職員、自治会長がゼロで、審議会等の女性委員の割合(29)も低い。

地域の連帯・国際性:移住定住・交流人口の増加を目指すまちの魅力の発信力が低い(31)。

総合計画とSDGsの関係:「自力」一人ひとりが考え行動し、未来を創るまちづくり」が理念。SDGsの言及はないが、産業振興、雇用創出、移住定住、少子化対策、安心・安全、健康を重視したまちづくりを目指す。民間企業との連携によるスーパーヘルスケアシティ、譲渡型賃貸住宅を通じた移住促進はSDGsの実践の例として評価。

優先課題:人口減、雇用創出、移住定住・交流人口の増加、女性就業者の正規雇用率、小中学校のICT教育の環境、一人当たりCO2排出量、男女共同参画の推進、女性の管理職員、審議会等の女性委員

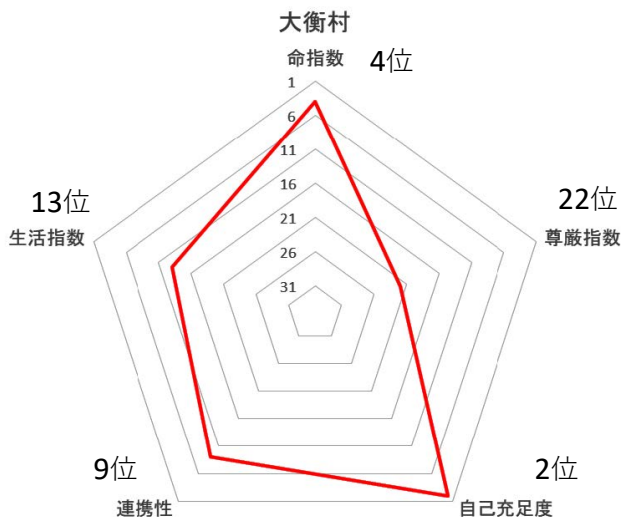
宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

29 大衡村

総合指数:第4位

人口5,866人(34位)
推計人口4,855人(2035年)
面積 60.3km²

命指数4位が高く、生活指数13位に比べて尊厳指数22位が低い。主観的な自己充足度2位と連携性9位は。客観的データより高い。



生命・健康:平均寿命(男12位、女13位)は中位だが、女性の健康寿命(男1位、女32位)が課題。未婚率が低く(男性(3)、女性(5))、出生率が高く(2)、若年層(15-34歳)の転入率(4)が高く、子どもの割合(5)が多く、高齢者単身世帯(3)が少ない。病院・診療所の数(4)、医師の数(5)が多く、一人当たり医療費(1)、健康診断受診率(3)が高く、子どもの医療費助成(1)も高く、健康環境が良好である。運動習慣(6)、一日の歩数(2)も多いが、喫煙率(33)が極めて高い。自然災害による死者数(3)は少ないが、交通事故死傷者数(35)は最も多い。

経済産業・雇用:一人当たり所得(1)が最も高く、所得300万円未満世帯(3)、国民年金保険料の全額免除(3)が極めて少ない。労働生産性(7)が高く、完全失業率(2)、女性人口の就業者割合(5)、高齢者有業率(1)など雇用環境も良好であるが、障害者雇用率(30)が低い。

教育:待機児童数はゼロで、一人当たり教育費(5)は高いが、小中学校のICT教育の環境(34)の拡充が急務。生涯教育の機会(31)が少ない。

福祉:高齢者用施設数(5)が多く、介護サービス従事者数(1)は最も多いが、介護保険料(33)、要介護者の割合(30)、特老施設入所希望者の割合(32)がいずれも高く、介護の課題が大きい。

生活環境:日照時間(33)は短い。一人当たりCO2排出(35)は最も多い。自然災害による住居被害(5)は少ないが、消防団員の充足率(34)が極めて低い。コンビニ数(6)は人口比で多い。飲酒運転違反件数(30)、刑法犯罪認知件数(34)が極めて多い。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:子どもの居場所(5)は多いが、女性の自殺率(33)が高く、女性自治会長はいない。

地域の連帯・国際性:移住定住の増加を目指すまちの魅力の発信力が低い(32)。NPO団体数(29)が少ない。外国人人口(8)、未成年の外国人(6)は人口比で多い。

総合計画とSDGsの関係:「新しい時代につなぐ豊かな万葉の里・おおひらーみんなで支え、笑顔で暮らせるまちづくり」が理念。持続可能なまちづくりとして、バイオマスなどクリーンエネルギーの実用化など、SDGsを環境の持続可能性と捉えている。子どもや女性の尊厳関連は弱い。地域文化の継承、郷土愛を育む教育、民間活力の活用、住民組織の育成を支援し、意見を取り入れる努力は評価。

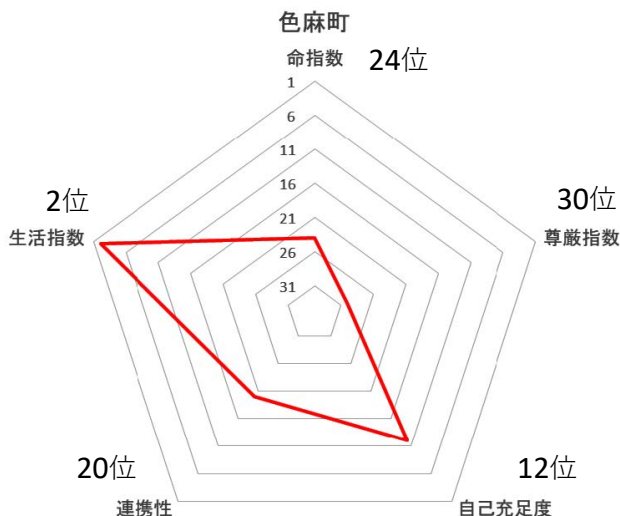
優先課題:女性の健康年齢、交通事故死傷者数、喫煙率、障害者雇用率、ICT教育の環境、生涯教育、特老施設、飲酒運転、刑法犯罪認知件数、女性の自殺率

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

30 色麻町 総合指数:第19位

人口6,643人(32位)
推計人口5,707人(2035年)
面積109.3km²

生活指数2位は極めて高いが、命指数24位、尊厳指数30位が低い。主観的な自己充足度12位と連携性20位はほぼ近似した結果。



生命・健康:平均寿命(男27位、女34位)、健康寿命(男34位、女35位)ともに極めて下位で、課題が大きい。女性未婚率(2)が低く(男性(9)),子ども割合が比較的多い(11)が、ひとり親世帯の子どもの数(29)も多い。高齢者単身世帯(6)は少なく、子どもの医療費助成(1)が良好で、健康診断受診率(5)が高く、喫煙率(2)が低い。運動習慣(31)、一日の歩数(31)は極めて少ない。国民健康保険一人当たり納付額(34)、自殺死亡率(35)が最も高く、課題である。自然災害による死者数(4)、交通事故死傷者数(7)は少ない。

経済産業・雇用:農漁業生産高(1)は最も多いが、一人当たり所得(32)に反映されていない。完全失業率(1)、女性人口の就業者割合(1)、高齢者有業率(2)いずれも良好。財政力指数(34)が極めて低い。

教育:待機児童、就学援助受給者がゼロで、小中学校のICT教育の環境(1)が良好で、生涯教育の機会(5)が多い。肥満傾向児童(中2(32))が多い。

福祉:介護サービス従事者数(5)は多いが、特老施設入所希望者の割合(34)は極めて高い。生活環境:日照時間(30)は短く、再生可能エネルギーの発電量(29)は少ない。

生活環境:住宅延べ面積(4)が大きく、持ち家比率(5)も高い。自然災害による住居被害(4)が少なく、消防団員の充足率(4)が高く、刑法犯罪認知件数(1)が最も少ないが、飲酒運転違反件数(32)は極めて多い。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:選挙投票率(2)は高い。子どもの居場所(6)は多いが、男女共同参画の推進(27)に課題があり、女性の自殺率(34)が高い。

地域の連帯・国際性:指定文化財(6)多いが、NPO団体数(33)は少ない。未成年の外国人(32)が少なく、外国人の増加を歓迎する割合(31)が低い。

総合計画とSDGsの関係:「イナカの良さ、強さ、美しさを生かしたまちづくり」が理念。SDGsの言及がなく、子育て支援、高齢者対策、定住促進、循環型共生社会が重点。人間を尊重し、思いやりを大切にすると人権教育の推進、郷土の伝統を学習する「色麻学」は評価。他方で、子どもや女性の尊厳の分野が十分でない。

優先課題:健康寿命、自殺死亡率(特に女性)、子育て支援、肥満傾向児童、定住促進、男女共同参画の推進、財政力、飲酒運転、買い物・交通の便、広域的視点による積極的な発信

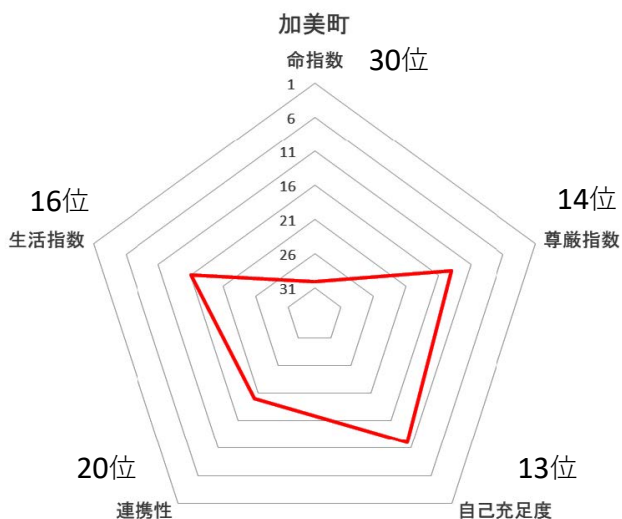
宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

31 加美町

総合指数:第22位

人口2万2,533人(21位)
推計人口1万6,605人(2035年)
面積 460.7km²

命指数30位が極めて低いが、生活指数16位、尊厳指数14位は中位。主観的な自己充足度13位と連携性20位はやや上回る。



生命・健康:平均寿命(男28位、女24位)に比し、健康寿命(男33位、女30位)が極めて低位。女性の未婚率(6)が低いが、男性(22)は比較的高い。子どもの割合、生産年齢人口(28)は低く、高齢化率(26)は高い。子どもの医療費助成(1)は良好であるが、国民健康保険一人当たり納付額(31)は高い。運動習慣(31)、一日の歩数(31)ともに低く健康意識に課題がある。

経済産業・雇用:一人当たり所得(29)は低い。地域再生計画認定数(3)、女性人口の就業者割合(4)、高齢者有業率(5)は良好であるが、労働生産性(35)、財政力指数(29)が課題。正規雇用者の割合(32)、障害者雇用率(33)が低く、雇用面で課題がある。

教育:教員当たり小学校児童数(7)は少ない。肥満傾向児童が多い(小6(27)、中2(24))。

福祉:介護保険料(31)が高く、高齢者用施設数(33)、介護サービス従事者数(33)が少なく、介護の課題が大きい。

生活環境:住宅延べ面積(6)が大きく、持ち家比率(7)が高く、住宅状況は良好。自然災害による住居被害(3)は少ない。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:女性の自殺率(6)は低く、審議会等の女性委員の割合(3)が高いが、女性の自治会長はいない。

地域の連帯・国際性:移住定住・交流人口の増加を目指す町の魅力のアピールのインパクトが強い(7)。指定文化財(4)、公民館数(4)が多い。パッパホールでの活動などを通じた音楽・芸術を重視。アンケート調査で、東日本大震災後地域の絆が強まったとの回答(32)、外国人の増加を歓迎する回答の割合(31)は少ない。

総合計画とSDGsの関係:「善意と資源とお金が循環する、人と自然にやさしいまち:共生、協働、自治」がまちづくりの理念。SDGsを原動力とした地方創生を推進するとして、多様なステークホルダーとの連携を通じて、経済社会、環境の取り組みごとにSDGsのロゴを表示。限定した項目のKPIはあるが、数値目標は設定していない。子どもの尊厳の分野が十分ではない。

優先課題:健康寿命、運動習慣、一日の歩数、雇用の創出、交流人口・移住定住の増加、障害者雇用率、高齢者用施設数、介護サービス従事者数

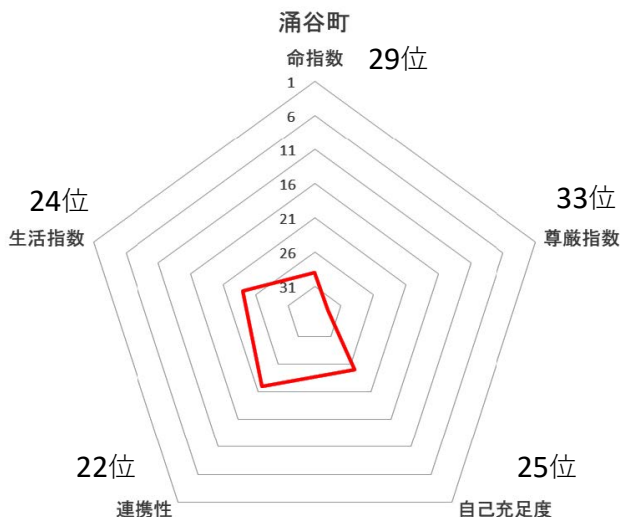
宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

32 涌谷町

総合指数:第35位

人口1万5,531人(23位)
推計人口1万2,253人(2035年)
面積 82.2km²

命指数29位、生活指数24位、尊厳指数33位がすべて低い。主観的な自己充足度25位と連携性22位も低く人生を悲観視する人が多い。



生命・健康:健康寿命(男23位,女9位)に比し、平均寿命(男34位,女35位)が極めて低位。出生率が低く(28),高齢化率(23)も高い。ひとり親世帯の子どもの数(33)が多い。子どもの医療費助成(1)は良好で、国民健康保険一人当たり納付額(2)も低い。運動習慣(31)、一日の歩数(31)が極めて少なく、大きな課題である。

経済産業・雇用:一人当たり所得は中位だが、ビッグデータによる世帯当たり購買額(2)は高い。労働生産性(3)も高い。国民年金保険料の全額免除(34)が極めて多い。

教育:待機児童数はゼロで、一人当たり教育費(6)が高い。生涯教育の機会(5)も多い。肥満傾向生徒が多い(中2(31))。

福祉:児童相談件数(32)が極めて多い。特老施設入所希望者の割合(6)は良好であるが、高齢者用施設数(29)が少ない。

生活環境:住宅延べ面積(2)は大きく、持ち家比率(6)が高く、住居環境は良好であるが、住宅の高齢者設備(33),汚水処理率(33)の改善が課題。消防団員の充足率(3)は高いが、防災拠点となる公共施設の耐震率(30)の向上が課題。飲酒運転違反件数(31)が極めて多い。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:子どもの虐待相談件数(34)が極めて多く、子どもの居場所(29)が少ない。女性管理職員の割合(2),自治会長の女性の割合(5)が高いが、審議会等の女性委員の割合(31)は極めて低い。

地域の連帯・国際性:指定文化財(7)は多いが、NPO団体数は少なく、外国人の割合(33)も少ない。アンケート調査では、東日本大震災後の地域の絆が強まったとの回答(33),外国人の増加を歓迎する割合(33)は少ない。

総合計画とSDGsの関係:「黄金花咲く交流の郷、涌谷—自然・歴史を生かした健康輝くまち」がまちづくりの理念。後期計画を策定中。交流人口、移住定住の増加、子育て支援、健康・福祉、自然環境、歴史遺産の活用が主たる関心事項。現行計画では、地域包括ケア、ユニバーサルデザイン、ひとり親家庭など包括的福祉の充実、子育て支援を重視。しかし、男女共同参画の推進の優先順位が低い。

優先課題:人口減、少子高齢化、交流人口・移住定住の増加、運動習慣、一日の歩数、児童相談件数、子どもの居場所、高齢者用施設数、住宅の高齢者設備、汚水処理率、防災拠点となる公共施設の耐震率、飲酒運転、審議会等の女性委員

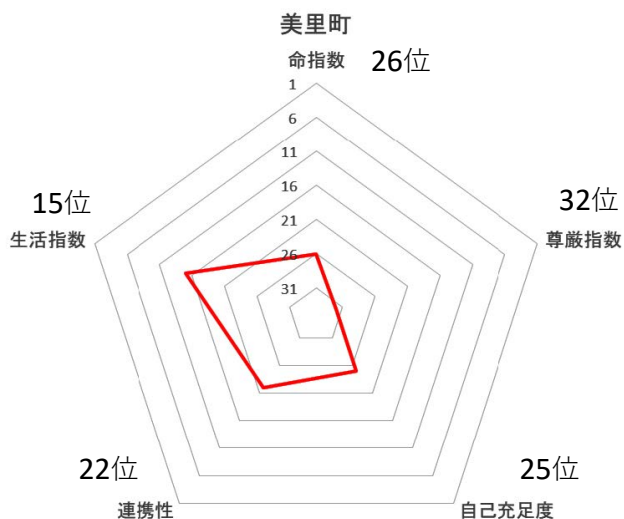
宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

33 美里町

総合指数:第31位

人口2万4,183人(19位)
推計人口1万8,610人(2035年)
面積 75.0km²

生活指数15位は中位であるが、命指数26位、尊厳指数32位が低い。主観的な自己充足度25位と連携性22位が低く、人生を悲観視する人が多い。



生命・健康:健康寿命(男16位,女5位)に比し、平均寿命(男30位,女29位)が低位。子どもの割合(22)、生産年齢人口の割合(23)ともにやや低位で、高齢化率(20)も相当高い。子どもの医療費助成(1)は良好であるが、運動習慣(31)、一日の歩数(31)は極めて少なく、健康意識の向上が課題。

経済産業・雇用:一人当たり所得は低い(26)が、ビッグデータによると世帯当たり購買額(7)は高い。労働生産性(27)、財政力指数(25)ともに低位。

教育:肥満傾向児童中2(30)が多く、生涯教育の機会(31)が少ない。小中学校のICT環境(27)の早急な拡充が課題。ユネスコスクールの指定校はない。

福祉:高齢者用施設数(3)は多いが、介護サービス従事者数(31)が少ない。

生活環境:一人当たりCO2排出量が少なく(8)、再生可能エネルギーの発電量も少ない(27)。住宅延べ面積(5)は大きく、持ち家率もやや高位(12)。飲酒運転違反件数(28)が多い。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:選挙投票率(7)は高い。審議会等の女性委員の割合(6)は多いが、女性の自治会長はいない。

地域の連帯・国際性:移住定住など人の交流推進を目指すうえでのインパクト(33)が弱い。アンケート調査で、東日本大震災後地域の絆が強まったとの回答(34)、外国人の増加を歓迎する割合(33)が少ない。外国人の割合(35)、技能実習生(33)が人口比で極めて少ない。

総合計画とSDGsの関係:「心豊かな人材を育み、地域産業が発展し、にぎわいのある、生き生きとした暮らしができるまち」がまちづくりの理念。第2次計画は、SDGsの持続可能な開発目標を踏まえて、策定したとしている。数値目標は設定していないが、主要統計は充実。いじめ・不登校の解消(数字公表)、高齢者に対する一体的サービス、障害者の差別の禁止、引きこもり、孤立、虐待などに対して、公的支援と住民の支えを組み合わせ、地域共生社会、平和行政の推進を目指すのは評価される。ただ、女性の尊厳の部分が弱い。

優先課題:少子高齢化、人口減、移住定住の増加、産業振興、運動習慣、一日の歩数、教育環境の充実(ユネスコスクールなど)、飲酒運転、財政力指数

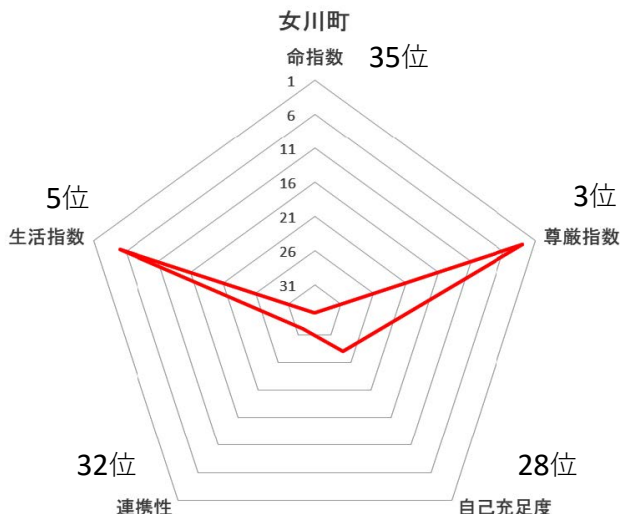
宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

34 女川町

総合指数:第18位

人口6258人(33位)
推計人口4022人(2035年)
面積 65.4km²

命指数35位は最も低いが、生活指数5位、尊厳指数3位は良好である。主観的な自己充足度28位と連携性32位は極めて低い。



生命・健康:平均寿命(男21位、女23位)、健康寿命(男21位、女26位)ともにやや低い。女性未婚率(33)が極めて高く(男性(16))、極めて高い流出率(33位)でも男女差が大きい(若年層(15-34歳)では、男性20%、女性38%)。子どもの割合(34)が低く、高齢化率(31)、高齢者単身世帯(34)が極めて高い。ひとり親世帯の子どもの数(35)が最も多い。自殺死亡率(33)が極めて高く、自然災害による死者数(35)は人口比で最も多く、東日本大震災前年と5年後の人口減は県内で最も大きい(43%)。運動習慣(3)に比べ喫煙率(31)が高い。交通事故死傷者数(3)は少ない。

経済産業・雇用:一人当たり所得(2)、労働生産性(2)、農漁業生産高(2)ともに極めて高い。他方、所得300万円未満世帯(33)、国民年金保険料の全額免除(31)が多く、貧困率の高さが推測される。完全失業率(4)が低く、正規雇用者の割合(1)が高いが、女性人口の就業者割合(32)は低い。財政力指数(1)は最も良好。

教育:教員当たり中学校生徒数(2)、一人当たり教育費(2)は良好で、生涯教育の機会(5)も多い。就学援助受給率(32)が高く、肥満傾向児童が多い(小6(33)、中2(29))のが課題。ユネスコスクールの指定校はない。

福祉:介護保険料(6)は低いが、児童相談件数(34)が極めて多い。生活保護受給率(30)が高く、要介護者の割合(31)、高齢者用施設数(34)が課題。

生活環境:日照時間(6)は長い。再生可能エネルギーの発電量(35)は最も低い。住宅の高齢者設備(2)は多いが、持ち家比率(35)は最も低い。自然災害により最も甚大な住居被害(35)を被った。飲酒運転違反件数(34)が多い。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:子どもの虐待相談件数(31)が多い。男女共同参画の推進(31)での課題が大きい。女性の自治会長はいない。

地域の連帯・国際性:指定文化財(3)、地縁団体の数(4)、NPO団体数(1)が多く、社会関係資本が豊かである。魅力や価値を積極的に発信。外国人の割合(1)、未成年の外国人(3)、技能実習生(1)が人口比で最も多い。

総合計画とSDGsの関係:「いのちとくらしをみんなて紡ぐまち」がまちづくりの理念。SDGsの言及はないが、公民が連携し、小さな町に見合った行政サービスを安心して提供できるまち、協働による持続可能なまちを目指す。教育環境の整備、郷土への愛着を育む教育、高齢者、障害者の社会参加を重視。

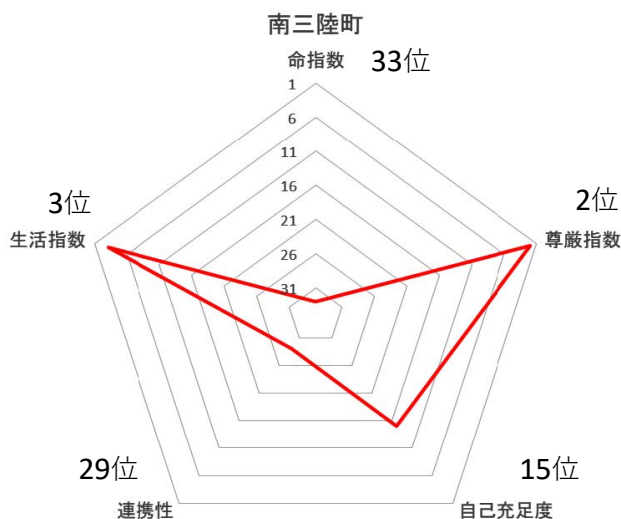
優先課題:復興・防災、原発の安全確保、水産業の再生、移住定住・交流人口の増加、喫煙率、高齢者用施設数、男女共同参画の推進

宮城県各自治体の優先課題(カッコ内の数字は順位)

35 南三陸町 総合指数:第8位

人口1万2,404人(26位)
推計人口8,349人(2035年)
面積163.4km²

命指数33位は極めて低いが、生活指数3位、尊厳指数2位が極めて高い。主観的な自己充足度15位は中位だが、連携性29位は弱い。



生命・健康:平均寿命(男22位、女7位)、健康寿命(男27位、女6位)ともに男性がやや低い。未婚率が高く(男性(29)、女性(31)),人口流出率(35位)が最も高く(若年層(15-34歳)では、男性39%、女性42%)、子どもの割合(28)、生産年齢人口(26)が少ない。自然災害による死者数(34)は人口比で極めて多い。東日本大震災前年と5年後の人口減は県内で第2位(37%)。病院・診療所(35),医師(33)が少なく、国民健康保険納付額(35)が高く、医療環境は大きな課題。子どもの医療費助成(1)は良好だが、12歳時喪失歯数(32)は多い。自殺死亡率(6)は低い。

経済産業・雇用:一人当たり所得(6)、農漁業生産高(3)は高いが、所得300万円未満世帯(35)が最も多く、貧困率の高さが推定される。完全失業率(6)、女性就業者の正規雇用率(6)、高齢者有業率(6)は良好であるが、正規雇用者の割合(35)、障害者雇用率(29)、財政力指数(35)が大きな課題である。

教育:教員当たり小中高児童生徒数が少なく(小学校(3))、就学援助受給率(5)が低く、一人当たり教育費(3)は高い。ユネスコスクール(6)指定校の数、教育内容の拡充が課題。肥満傾向児童(小6)が最も多い(35)。

福祉:児童相談件数(5)、生活保護受給率(4)が少ない。

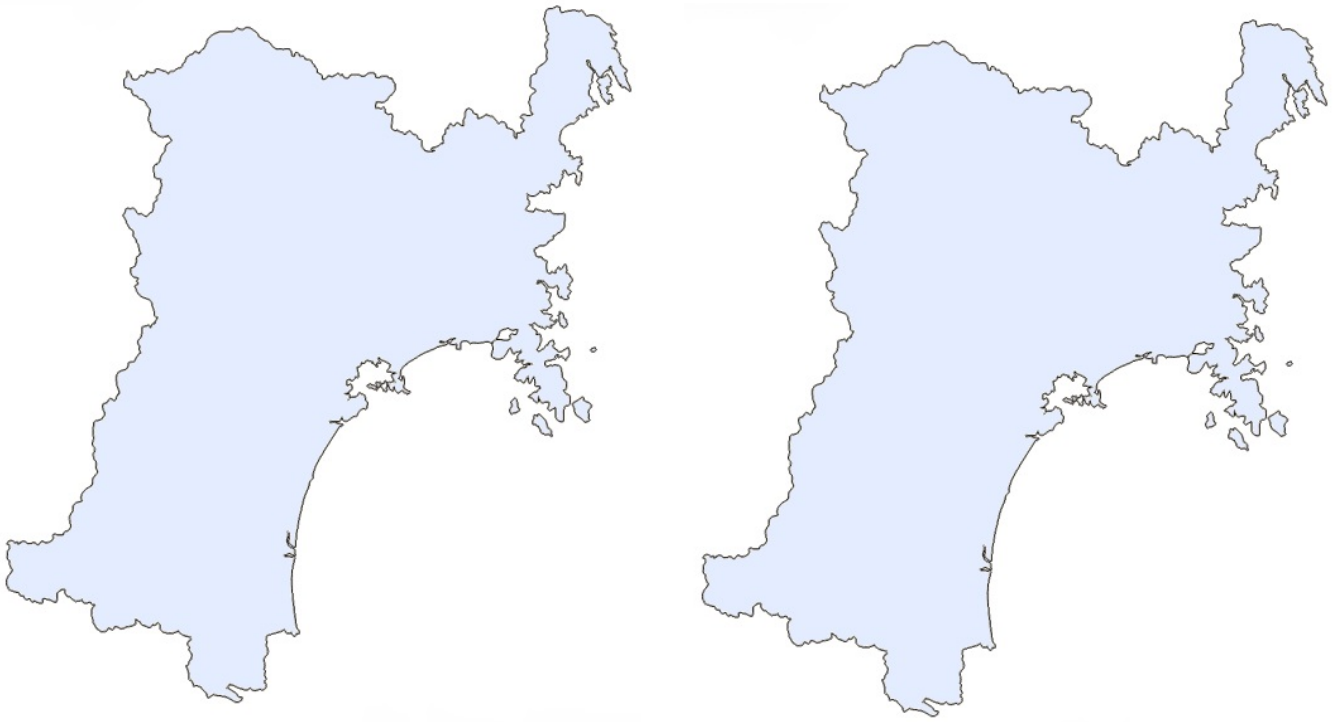
生活環境:日照時間(4)は長いが、再生可能エネルギーの発電量(30)は少ない。自然災害により甚大な住居被害(33)を被った。自動車台数(6)、コンビニ数(4)が多い。犯罪認知件数(4)が少ない。汚水処理率(32)の改善が課題。

尊厳・公の信頼・ジェンダー:子どもの虐待相談件数(4)が少なく、女性の自殺率(1)が最も低い。女性管理職員の割合(5)が多い。

地域の連帯・国際性:人の交流、移住定住の増加を目指すうえでまちの魅力の発信力が高い(4)。指定文化財(2)、公民館数(5)、地縁団体の数(2) NPO団体数(4)すべてが多く、社会関係資本が豊かである。外国人の割合(4)、技能実習生(4)も人口比で多く、アンケート調査で、外国人の増加を歓迎する割合(5)も高い。

総合計画とSDGsの関係;「森里海ひと、いのちめぐるまち、南三陸」がまちづくりの理念。各種計画にSDGsを盛り込む方針で、SDGsの関連ロゴを表示。SDGsを主として循環型社会や経済社会の持続可能性ととらえており、ジェンダーの視点、尊厳の分野が弱い。南三陸町震災復興祈念公園、地域文化の学習などを通じて大震災の経験を後世に伝承していく努力を評価。

優先課題:復興、防災、移住定住・交流人口の増加、雇用の促進(特に正規雇用率、障害者)、子育て支援、健康診断受診率、医療環境、汚水処理率、財政力



このプロジェクトには、宮城県庁を始め県内各自治体、みやぎ生協（アンケート調査）、（株）True Data（購買に関わるビッグデータ）、神戸大学栗栖薫子教授研究室、「SDGsとみやぎ」女性ワーキンググループを始め、多数の研究者、NGOのご協力を得たことに感謝申し上げます。

また、中部大学「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」の助成を受けました。（研究課題番号IDEAS202016）

データで見る「誰も取り残されない宮城」のための宮城県の人間の安全保障指標
発行：2021年3月
本資料を引用する際は、NPO名を記載するようお願いします。

◎NPO法人「人間の安全保障」フォーラム



理事長 高須幸雄
事務局長 宮下大夢
hsforum.hq@gmail.com

